

平成27年度

青森県すこやか福祉事業団事業報告書

社会福祉法人  
青森県すこやか福祉事業団

# 目 次

第1	事務局	1
第2	障害児入所施設八甲学園	12
	施設入所支援事業、短期入所事業	13
	多機能型障害児通所事業	16
	多機能型事業所はっこう（就労移行支援、就労継続支援B型）	17
	指定共同生活援助事業所サンハウス	20
第3	養護老人ホーム安生園	22
	養護老人ホーム安生園	24
	老人居宅介護等事業安生園	30
	居宅介護支援事業安生園	32
第4	障害者総合福祉センターなつどまり	34
	障害者支援施設しらかば寮	37
	短期入所事業しらかば寮	47
	障害者支援施設さつき寮	48
	短期入所事業さつき寮	57
	指定共同生活援助事業所スワンハイム	57
	相談支援事業所なつどまり	58
第5	青森県長寿社会振興センター	60
第6	青森県発達障害者支援センター	65
第7	ライフサポートあおば	67
	行動援護事業あおば	68
	相談支援事業あおば	69
	児童デイサービスあおば	70
	児童デイサービスすこやか	71
	生活塾事業、チャレンジサポートすこやか	72
第8	あおもり出会いサポートセンター	74
第9	就労サポートセンターさつき	79
第10	特別養護老人ホームすこやか苑	85
第1	青森県すこやか福祉事業団事務局	

## 1 概況

当事業団は、平成19年度に青森県から独立民営化をして以降、「攻める事業団」のローガンのもと、地域や利用者のニーズも踏まえながら事業の拡充を図り、安定経営に必要な財務基盤の強化に努めてきた。

平成26年度に事業団では初めてとなる「特別養護老人ホーム」を建設し、施設整備事業についてもひと段落したところであるが、全国的な介護職に係る人材不足（応募者の減少だけではなく離職も含める）が当事業団でも深刻な問題となったことから、平成27年度は人材育成や職場環境の改善等を中心としたソフト面での対策に力を入れた。

### (1) 人材育成と人材確保

近年、当事業団では地域のニーズを踏まえた様々な事業を展開してきた。事業展開に伴い従事する職員の確保も必要であったが、求人しても応募者が少なく、福祉経験のない人材を採用せざるを得ない状況の中、サービスの質を維持することの困難さや、不慣れた業務等を理由に離職するケースが相次ぎ、事業運営にも大きな支障を来した。

そこで、平成27年度に事務局に「人材育成課」を設置し、新卒者に係る求人では早期に、そして広域的に企業活動を実施し、今後の法人運営を担う人材を確保することができた。

また、職員研修にも力を入れ、ハラスメントやメンタルヘルスに関する研修会だけではなく、全職員を対象とした交通安全に関する研修や「利用者誤嚥吸引研修」の実施など、職員の安全意識及び危機管理意識の醸成に努めた。

### (2) 職員の待遇改善

当事業団では、業務に従事する職員の半数近くが非正規雇用者であるが、福祉の現場において欠かせない存在であることから、従来適用してきた「福祉・介護職員処遇改善特別加算」ではなく、「福祉・介護職員処遇改善加算Ⅰ」を適用することで、一人あたりの賃金の大幅な改善を図った。

すべての職員が同加算の対象ではないが、法人自己負担も含め多くの職員の賃金改善を図ることができた。

### (3) 働きやすい職場づくり

働きやすい職場、風通しの良い職場づくりをめざし、職員の福利厚生の実施を図った。まず、正規職員だけではなく非正規職員も対象として社会福祉法人福利厚生センターが運営する「ソウェルクラブ」へ加入した。

また、法人独自の福利厚生の取組として、一定の基準を満たす職員の自主的なサークル活動に対して助成を行う制度を創設し、3団体計15万円（1団体の助成限度額5万円）を助成した。

また、女性の社会活躍を推進する一環として、職場において男性だけではなく女性も働きやすく、仕事と家庭バランスを両立することができる職場環境を整備している企業として、青森県より「ワーク・ライフ・バランス推進企業」として認証された。

### (4) 法人積立計画の作成

青森県すこやか福祉事業団中期計画(平成27年度～平成31年度)を作成したが、今後施設整備や大規模修繕などに必要な経費や、職員の退職や採用に係る人件費の必要額等を積算し、今後の法人運営に必要な経費を積立する具体的な計画を、「経営会議」を中心に立案した。

今後の各年度の経営状況も考慮しながら、積立計画を平成28年度から実施できるように努める。

(5) 助成団体への申請について

平成27年度については、機器整備だけではなくソフト面に関する事業も含め6団体へ申請したが、残念ながらすべての団体に採択されなかった。

平成28年度も各事業所における事業計画等に基づき、必要があるものについては引続き様々な団体が実施する助成事業へ応募するものである。

(6) 専門性の向上

近年、障害福祉サービスや高齢者福祉サービスにおいては、より充実したサービス提供を目的に、福祉関係の資格所持者を事業実施における配置基準の必要条件と定めており、場合によっては加算にも影響するなど、資格所持者の確保が重視されている。

当事業団でも、人材育成の観点や事業運営における必要性の観点から、福祉専門資格取得を奨励し、平成27年度は13名が福祉専門の資格（内訳：精神保健福祉士2名、介護福祉士9名、介護支援専門員2名）を取得した。

(7) 法人理念の見直し

当事業団では、現在「経営理念」として「安定した経営基盤を構築し、利用者一人ひとりの生活を大切にするサービスの提供に努めます。」を掲げているが、これは平成19年度の独立民営化後に設定したものである。

間もなく民営化から10年近くとなり、その間社会福祉法人を取り巻く環境も大きく変化し、その中で法人の理念は使命や役割を表明する非常に重要なものとして、改めて注目されるようになってきている。

当事業団の今後の使命や役割を踏まえ、利用者の期待、職員の願い、地域社会に対する法人の存在意義を改めて示すために、平成28年度から新たな法人理念を策定すべく、平成27年度に職員全員参加による意見聴取を踏まえ、新たな法人理念として次のように決定した。

私たちは、すべての人がお互いに尊重し合い、安心して暮らしていける社会の実現を目指します
---

(8) 県民福祉プラザの管理・運営

平成27年度より、再度県民福祉プラザの指定管理者として平成29年度まで管理運営にあたることとなった。

これまでの指定管理受託の経験と実績を活かし、お客様の利便性重視、接客等の更なる向上を図った。定期的開催するプラザ連絡会を通して、各入居団体との連絡を密にし、円滑な会館の管理・運営に努めた。

お客様や入居団体の職員が安心して館内を利用できるよう、想定される様々なリスクに対応するため、「県民福祉プラザ危機管理マニュアル（不審者編）」に基づき警察官を講師として招き「不審者対応訓練」を実施し、有事の際の対応や手順等に関する訓練を実施した。

県民福祉プラザも建設から18年が経過し、建物や設備の劣化や老朽化が目立つようになってきていることから、引続き安全、安心して利用できるよう安全点検を継続的に実施するとともに、必要な設備改修等については設置者である青森県と連携を密にして対応するものである。

## 2 職員の状況

	事務局長	次 長	総務課長	人材育成課長	主任事務員	事務員	臨時事務員	計
男	(1)	1	1		1		2	6
女				1	1		6	8
計	(1)	1	1	1	2		8	14

※平成28年3月末の人数。( ) は事務局長が常務理事兼務。理事長、県民福祉プラザ夜間事務補助員を除く。

## 3 事業の実施状況

項 目	実施時期	内 容
1 理事会	27年5月25日	<p>事業団定款第10条の規定に基づき次のとおり開催した。</p> <p>① 第40回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」</li> <li>・ 出席理事、監事 理事7人、監事1人</li> <li>・ 議決事項</li> </ul> <p>議案第1号 平成26年度一般会計補正予算（理事長専決分）（案）</p> <p>議案第2号 平成26年度特別会計補正予算（理事長専決分）（案）</p> <p>議案第3号 平成26年度事業報告（案）</p> <p>議案第4号 平成26年度決算書（案）</p> <p>議案第5号 評議員の委嘱について（案）</p> <p>議案第6号 事業団中期計画（案）</p> <p>議案第7号 チャレンジサポートすこやか開設に伴う事業計画（案）</p> <p>議案第8号 経理規程の一部を改正する規程（案）</p> <p>議案第9号 平成27年度補正予算（案）</p>
	27年12月17日	<p>第41回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」</li> <li>・ 出席理事、監事 理事8人、監事2人</li> <li>・ 議決事項</li> </ul> <p>議案第1号 退職給与積立金取崩（案）</p> <p>議案第2号 平成27年度補正予算（理事長専決分）（案）</p> <p>議案第3号 平成27年度補正予算（案）</p>

	28年3月17日	<p>議案第4号 就業規則の一部を改正する規則(案)          議案第5号 特定個人情報取扱規程の制定(案)          議案第6号 平成28年1月1日付施設長等人事(案)</p> <p>③ 第42回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」</li> <li>・ 出席理事、監事 理事9人、監事2人</li> <li>・ 議決事項</li> </ul> <p>議案第1号 退職給与積立金取崩(案)          議案第2号 平成27年度補正予算(案)          議案第3号 平成28年度事業計画(案)          議案第4号 経理規程の一部を改正する規程(案)          議案第5号 平成28年度当初予算(案)          議案第6号 就業規則の一部を改正する規則(案)          議案第7号 給与規程の一部を改正する規程          議案第8号 評議員の委嘱(案)          議案第9号 理事長の互選(案)          議案第10号 常務理事及び理事長の職務代理者の指名及び選任(案)          議案第11号 平成28年4月1日付施設長等人事(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告事項</li> </ul> <p>報告第1号 理事の委嘱及び監事の選任について          報告第2号 平成27年度監査結果について          報告第3号 福祉サービス質の評価実績報告について</p>
2 評議員会	27年5月25日	<p>事業団定款第14条の規定に基づき、次のとおり開催した。</p> <p>① 第40回評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」</li> <li>・ 出席評議員、監事 評議員16人、監事2人</li> <li>・ 議決事項</li> </ul> <p>議案第1号 平成26年度一般会計補正予算(理事長専決分)(案)          議案第2号 平成26年度特別会計補正予算(理事長専決分)(案)          議案第3号 平成26年度事業報告(案)</p>

		<p>議案第 4 号 平成 26 年度決算書 (案)</p> <p>議案第 5 号 事業団中期計画 (案)</p> <p>議案第 6 号 チャレンジサポートすこやか開設に伴う事業計画 (案)</p> <p>議案第 7 号 経理規程の一部を改正する規程 (案)</p> <p>議案第 8 号 平成 27 年度補正予算 (案)</p> <p>・ 報告事項</p> <p>報告第 1 号 評議員の委嘱について</p>
	27 年 12 月 17 日	<p>② 第 4 1 回評議員会</p> <p>・ 場所 県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」</p> <p>・ 出席評議員、監事 評議員 16 人、監事 1 人</p> <p>・ 議決事項</p> <p>議案第 1 号 退職給与積立金取崩 (案)</p> <p>議案第 2 号 平成 27 年度補正予算 (理事長専決分) (案)</p> <p>議案第 3 号 平成 27 年度補正予算 (案)</p> <p>議案第 4 号 就業規則の一部を改正する規則 (案)</p> <p>議案第 5 号 特定個人情報取扱規程の制定 (案)</p> <p>議案第 6 号 平成 28 年 1 月 1 日付施設長等人事(案)</p>
	28 年 3 月 17 日	<p>③ 第 4 2 回評議員会</p> <p>・ 場所 県民福祉プラザ 3 階「多目的室 3 A」</p> <p>・ 出席評議員、監事 評議員 11 人、監事 0 人</p> <p>・ 議決事項</p> <p>議案第 1 号 退職給与積立金取崩 (案)</p> <p>議案第 2 号 平成 27 年度補正予算 (案)</p> <p>議案第 3 号 平成 28 年度事業計画 (案)</p> <p>議案第 4 号 経理規程の一部を改正する規程 (案)</p> <p>議案第 5 号 平成 28 年度当初予算 (案)</p> <p>議案第 6 号 就業規則の一部を改正する規則 (案)</p> <p>議案第 7 号 給与規程の一部を改正する規程</p> <p>議案第 8 号 理事の委嘱及び監事の選任 (案)</p> <p>議案第 9 号 常務理事及び理事長の職務代理者の指名及び選任 (案)</p> <p>議案第 10 号 平成 28 年 4 月 1 日付施設長等人事(案)</p>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告事項</li> <li>報告第1号 評議員の委嘱について</li> <li>報告第2号 平成27年度監査結果について</li> <li>報告第3号 福祉サービス質の評価実績報告について</li> </ul>
3 監査等	27年4月20日 5月7～11日 5月14日 8月18日  10月7日 10月8日 10月9日  10月13日 10月15日 10月16日 10月19日 10月29日  12月16日 12月16日  2月8日  【その他】 書面監査	① 青森県すこやか福祉事業団監事事前監査 ② 青森県すこやか福祉事業団監事監査 ③ 青森県委託事業監査 ④ 青森市指導監査課による実地指導 監査対象：ライフサポートあおば ⑤ 青森県すこやか福祉事業団内部監査 監査対象：八甲学園 監査対象：すこやか苑 監査対象：事務局、長寿社会振興センター 発達支援センター、出会いサポートセンター、プラザ管理室 監査対象：なつどまり 監査対象：就労サポートセンターさつき 監査対象：ライフサポートあおば 監査対象：安生園 ⑥ 青森県監査委員予備監査 監査対象：県民福祉プラザ ⑦ 青森県監査委員委員監査 監査対象：県民福祉プラザ ⑧ 青森市指導監査課による実地指導、指導監査 監査対象：すこやか苑 ⑨ 青森市指導監査課による実地指導 監査対象：八甲学園  八甲学園（青森県）、安生園（青森市）
4 会議等		
(1)所属長会議	27年4月 ～28年3月	各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。 ・開催回数 計8回



(2) 経営委員会	27年4月 ～28年1月	事業団の中期計画に基づく今後の法人運営に必要な積立計画の策定や、今後の各種制度改正に向けた検討を行った。 ・開催回数 計6回（打合せ2回含む）
(3) 総務担当者 会議	27年4月 ～28年2月	庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。 ・開催回数 計4回
(4) 環境整備 委員会	都度	各施設の所有地の環境整備やしいたけ栽培用の原木の伐採、田植え等を実施した。
(5) 人材確保特 別対策委員会	27年5月～9月	福祉人材の確保が今後の法人運営に欠かせない問題であるため、委員会にて課題の検討や今後の企業活動に向けた話し合いを実施した。 ・開催回数 計4回
(6) 職場環境改 善委員会	27年4月、6月	労働者が働きやすい職場環境整備のために、ハラスメントやメンタルヘルスなどの予防や発生時の対応等必要な取り組みについて検討した。 ・開催回数 計2回
(7) 福祉サービ スの向上推進 委員会	27年4月～ 28年2月	法人内の課題解決への取組を強化するため、当委員会を通じてサービスの質の向上に関する職員の意識の醸成と人材育成を図った。 ・開催回数 計10回
5 職員の福利 厚生		非正規職員も含め（一部を除く）全職員を対象としてソウェルクラブへ加入し、福利厚生の充実を図った。 また法人認定のクラブに対する助成金支援制度を創設した。
6 その他 (1) 北海道・東北 ブロック事業 団連絡協議会	27年6月25日 ～26日  27年7月23日 ～24日	北海道・東北ブロック事業団事務局長会議 ・場 所 青森市「ラ・プラス青い森」 ・出席者 開催県につき事務局職員5名参加 第1回北海道・東北ブロック事業団連絡協議会 ・場 所 盛岡市「ホテルルイズ」 ・出席者 2人

(2) 全事協事業	28年2月18日 ～19日	第2回北海道・東北ブロック事業団連絡協議会 ・ 場 所 福島県西郷村「ホテルサンルート白河」 ・ 出席者 2人
	27年10月22日 ～23日	全国社会福祉事業団大会 ・ 場 所 愛知県名古屋市「名鉄グランドホテル」 ・ 出席者 1人

### 3-1 研修の参加状況

項目	実施時期	内容
7 職員の研修 (1)階層別研修 ・新任職員研修	27年4月17日 27年7月27日 27年10月14日 27年7月30日 27年10月22日	① 組織の理念、戦略、方針及び内部規則等について ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 20人 ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 14人 ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 7人 ② 管理職研修（ハラスメントと労務管理） ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 17人 ③ 中堅職員研修（リーダー研修）→他法人合同開催 ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 34人
・内定者研修	28年2月15日 ～18日	福利厚生・給与制度及び施設見学 平成28年度採用職員を対象とした研修 ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 8人
(2)課題別研修 ・大人の発達障害	27年5月15日、 20日	成人期の発達障害者の特性理解と具体的な支援について理解するための研修 ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 57名
・評価基準研修	27年11月3日 ～4日	人事考課制度未導入のため、今後の給与や階級設定の確定に係る評価基準の見直しを職員が主体となって検討する研修。 ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 33人
・交通安全研修	27年11月6日 ～27日	法人内の事故増加を受け、通勤だけではなく送迎時も車両を使用することから、安全意識を高めリスクの軽減を図るため、全職員を対象に4回に分けて研修会を実施。 ・場 所 県民福祉プラザ、八甲学園、安生園、なつどまり ・出席者 269人
・セカンドライフステップアップセミナー	27年11月11日	退職後の人生設計に必要な知識（年金、保険等）の習得を目的に研修会を実施。 ・場 所 県民福祉プラザ ・出席者 16人
・メンタルヘルス予防対策研修	28年2月3日	職員の離職だけでなくサービスの質にも影響するメンタルヘルスの予防について、精神保健福祉センターの医師を講師として研修会を実施。 ・場 所 県民福祉プラザ

		・出席者 38人
(3)北海道・東北 ブロック研修 職員研修 I	27年10月29日 ～30日	意識改革を促進する研修 既成概念にとらわれない自由な発想で業務に取り 組むための意識改革の促進を図る研修 ・場 所 山形県山形市「ホテルキャッスル」 ・出席者 1人
(4)分野別、専門 別の研修につい て	27年5月19日～ 22日	社会福祉経営者研修会「人事管理コース」 ・場 所 神奈川県「中央福祉学院」 ・出席者 1人
	27年6月4日～ 5日	施設長実学講座「人材育成と働き甲斐のある職場づくり」 ・場 所 東京都全社協本部 ・出席者 1人
	27年6月11日～ 14日	職場研修担当職員研修会 ・場 所 神奈川県「中央福祉学院」 ・出席者 1人
	27年7月28日～ 29日	社会福祉法人経営管理講座（前期） ・場 所 東京都国際展示場 ・出席者 1人
	27年7月31日	全事協社会福祉法人会計に関する研修 ・場 所 東京都「全国都市会館」 ・出席者 1人
	27年8月4日	介護人材の総合的な確保方策と人材獲得競争を勝ち 抜くための戦略研修 ・場 所 東京都「SSKセミナールーム」 ・出席者 1人
	27年9月16日 ～18日	青森県高齢者福祉人材定着支援事業視察研修 ・場 所 北海道内関係施設他 ・出席者 1人
	27年10月23日	社会福祉法人セミナー「法人制度見直しを活かすため に」 ・場 所 東京都「砂防会館」 ・出席者 1人
	27年10月14日	社会福祉法人会計・経営セミナー ・場 所 岩手県「県民情報交流センター」 ・出席者 2人
	27年11月16日	全事協労務管理研修 ・場 所 東京都「全国都市会館」 ・出席者 1人
	28年1月27日～ 29日	社会福祉法人経営管理講座（後期） ・場 所 東京都国際展示場 ・出席者 1人
	28年2月2日	社会福祉法改正と決算実務 ・場 所 宮城県「仙台市情報産業プラザ」 ・出席者 1人

#### 4 県民福祉プラザの利用状況

No	研修室名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1	県民ホール	利用件数(件)	15	10	22	21	18	17	18	27	16	9	14	25	212
		利用者数(人)	1,640	1,800	2,891	3,465	1,848	2,140	4,140	4,026	1,883	1,700	2,145	3,623	31,301
2	大研修室	利用件数(件)	22	21	27	33	23	28	21	28	26	10	26	26	291
		利用者数(人)	1,429	1,240	1,454	1,793	1,245	1,280	1,025	1,340	1,185	700	1,340	1,590	15,621
3	中研修室	利用件数(件)	19	22	23	31	24	28	28	33	27	14	24	28	301
		利用者数(人)	860	1,075	1,029	1,372	1,066	1,130	1,295	1,435	1,016	675	970	1,196	13,119
4	小研修室	利用件数(件)	33	28	32	38	30	28	34	30	26	19	27	27	352
		利用者数(人)	472	397	468	637	429	494	529	458	420	308	401	406	5,419
5	多目的室4A	利用件数(件)	26	28	26	27	29	29	31	35	29	24	31	24	339
		利用者数(人)	632	739	720	870	901	868	842	935	728	639	820	623	9,317
6	多目的室4B	利用件数(件)	24	21	23	34	27	22	25	30	27	19	23	21	296
		利用者数(人)	720	626	824	1,022	1,015	850	835	965	879	455	654	581	9,426
7	講師控室1	利用件数(件)	4	9	11	10	9	10	14	14	10	11	6	6	114
		利用者数(人)	16	34	53	43	41	40	52	58	38	35	24	26	460
8	講師控室2	利用件数(件)	4	8	15	21	20	21	22	15	6	9	10	9	160
		利用者数(人)	20	40	75	98	100	102	93	71	26	38	50	41	754
9	多目的室3B	利用件数(件)	22	21	28	35	23	32	28	26	19	14	18	18	284
		利用者数(人)	444	383	535	616	538	630	492	489	403	265	366	334	5,495
10	多目的室3C	利用件数(件)	11	22	25	21	21	25	20	21	20	17	20	17	240
		利用者数(人)	78	158	176	135	167	230	126	164	133	118	136	103	1,724
11	多目的室2A	利用件数(件)	17	21	27	35	28	27	25	29	20	12	20	18	279
		利用者数(人)	527	704	956	1,074	1,136	905	833	910	683	424	572	608	9,332
12	多目的室2B	利用件数(件)	32	23	24	35	29	30	32	28	15	18	26	19	311
		利用者数(人)	482	281	406	471	457	480	519	414	223	268	357	240	4,598
13	調理実習室	利用件数(件)	12	8	13	10	9	10	13	15	8	7	7	9	121
		利用者数(人)	149	84	200	141	147	126	193	248	108	122	85	154	1,757
合 計		利用件数(件)	241	242	296	351	290	307	311	331	249	183	252	247	3,300
		利用者数(人)	7,469	7,561	9,787	11,737	9,090	9,275	10,974	11,513	7,725	5,747	7,920	9,525	108,323

【参 考】 平成26年度 利用件数 3,367件  
利用者数118,003人

## 第2 障害児入所施設八甲学園

### 1 概況

平成27年度は、法人の経営理念とともに、新たに定めた学園の「基本理念」及び「基本方針」に基づき施設運営に努めてきた。

こども支援課の入所支援では、児童福祉法に基づき支援が行われ、満18歳以上の入所者に対しては障害者総合支援法の障害者施策の中で支援を行ってきた。

入退所の状況として、男子児童2名が契約での入所となり、また、男子児童1名が措置での入所となった。

退所では、3名の児童が障害者支援施設（法人内の施設）へ移行し、2名が市内の事業所へ就職し、併せて八甲学園のグループホームに入居となった。

今後の入退所の動向としては、在宅福祉サービスの充実や保護者の在宅志向により、施設入所を希望する保護者は年々減る傾向にあり、その傾向は続いていくものと思われる。

しかし、子どもが成長していく中で、その障害特性等により家庭での養育が難しくなったり、家庭状況の変化によって入所を希望せざるを得なくなったりするケースも存在し、実際、入所の問い合わせにおいても、精神障害や強い行動障害を抱えているケースが多く、個別での対応、より専門的な支援が求められるようになっている。

こども支援課の在宅支援では、多機能型障害児通所支援事業（放課後等デイサービス事業・児童発達支援事業）としてスタートし4年目となった。月曜から金曜の放課後等デイサービス事業では、青森第二養護学校に通学する小・中・高等部生を中心に1日平均11名の受け入れとなった。

青森県からの委託事業である親子指導事業（昭和55年度から当法人の「障害者総合福祉センターなつどまり」で事業実施、平成24年度からは八甲学園で事業を引継ぎ実施）については、1年間の延べ利用者が232名で、過去最高の利用者数となったものの、県の事業見直しにより、平成27年度末をもって、親子指導事業は廃止することとなった。

地域就労支援課の多機能型事業所「はっこう」（定員40名）では、昨年度までの就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業の2事業に、新たに生活介護事業（定員6名）を加えて支援を行ってきたが、利用ニーズがさらにあることから定員の見直し等の検討が必要となってきた。

また、就労継続支援B型事業の中で行ってきた「こだわりの店『つぼみ』（県内のいろいろな施設・事業所で生産したお菓子や手工芸品などを請負販売するもの）を、4月から県民福祉プラザ（青森市中央2丁目）2階の喫茶施設に場所を移し、併せて喫食事業（主に日替わり弁当の販売）も加えて事業展開してきた結果、ようやく収支面においても事業として軌道に乗せることができた。

さらに、11月からは、県の事業（共同受注体制整備支援事業：就労継続支援事業所の供給物品等の受注拡大を図る目的）を受けて、アウガ（青森市駅前）2階の「あ

ったかふれあいサロン内」に、『つぼみ2号店』を開設したことから、販売先の開拓とともに、利用者の工賃アップを図ることができた。

共同生活援助事業では、老朽化が進んでいたグループホームの1か所（中央地区の第五サンハウス）を、幸畑地区のアパートに移転した他、2か所のグループホームに自動火災報知機を設置するなど利用者支援の充実に努めた。

職員研修においては、虐待等不適切支援の防止に向けて、外部研修の他、内部（悉皆）研修や職員セルフチェックリストの実施などにより意識啓発等を図った。

## 2 職員の状況

（平成28年3月31日現在）

区 分	総務課	こども支援課		地域就労支援課		計
		入所支援	デイはっこう	多機能型	GH	
園 長	1					1
課 長	1	1		1		3
主任支援員		3		1	1	5
副主任支援員・事務員	1		1	1	1	4
事務員・支援員	1	6	1	2		10
臨時事務・支援員	1	7	3	6		17
非常勤支援員	1			6	4	11
非常勤嘱託等	5					5
専任当直員	3					3
計	14	17	5	17	6	59

### I 施設入所支援（指定知的障害児施設）

#### 1 利用児童等の状況

- (1) 定 員 30名
- (2) 平成26年度末現在利用児童等の数 30名
- (3) 平成27年度内退所児童の数 5名
- (4) 平成27年度新規利用児童等の数 3名
- (5) 平成27年度末現在利用児童の数 28名

(6) 年齢別利用児童等の数 (平成28年3月31日現在)

年 齢	男	女	計	年 齢	男	女	計
5				14	2		2
6				15			
7				16	2	1	3
8				17	3	1	4
9				18	1	3	4



10				19	1		1
11	2		2	20歳以上	4	2	6
12	3		3	計	21	7	28
13	3		3				

入所児童の平均年齢 16.2歳 (男子 15.6歳 女子 18.3歳)

(7) 第二養護学校への就学状況 (平成28年3月31日現在)

学年 性別	小学部							中学部				高等部				合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
男					1	3	4	2	2		4	2	3	1	6	14
女												1	1	3	5	5
計					1	3	4	2	2		4	3	4	4	11	19

## 2 運営方針

児童福祉法及び障害者総合支援法並びに関係する法令等に基づき、利用児・者一人ひとりが人間としての尊厳を守られながら、心豊かで健やかに成長し、地域社会の一員として自己の能力や特性に応じた暮らしができるよう、ライフステージに応じた多様なサービスを提供する。

18歳以上の利用者に対しては、個々の能力や特性に応じた障害福祉サービスを提供し、地域生活を目指した支援を行う。また、可能な限り本人の意思を尊重し、自ら選択・決定できるよう支援を行う。

## 3 重点事項

- (1) 虐待防止及び権利擁護の推進啓発
- (2) 利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実
- (3) 基本的生活習慣の確立
- (4) 地域生活に向けた社会性の向上及び社会参加の促進
- (5) 在宅児童に対する療育支援の充実
- (6) 生活・支援環境の整備と向上
- (7) 家庭、学校、医療及び関係機関との協力・連携

## 4 事業の実施状況

項目	実施時期又は回数	内容
(1) 生活支援	随時	①社会体験学習 買物・食事・公共施設等 (延54名)

	<p>4月26日 4月29日 7月17日 7月22日  8月 3日 11月 9日 11月10日  12月22日 1月 4日 1月 7日  4月期 7月～8月期 12月～1月 期 3月期</p>	<p>②行事 ・花見外出/合浦公園 (C棟7名) ・花見外出/合浦公園 (B棟12名) ・学園なつまつり ・夏休み外出/三沢 (三沢航空科学館) (18名) ・ねぶた観覧 (招待18名) ・県庁りんご収穫祭 (招待4名) ・自立センターみらい文化祭模擬店参加 (3名) ・クリスマスの集い ・新年会 ・餅つき会</p> <p>③家庭実習 ・春季家庭実習 (4名帰省) ・夏季家庭実習 (9名帰省) ・冬季家庭実習 (14名帰省) ・春季家庭実習 (4名帰省)</p>
(2) 学卒児支援	年間	<p>① 園外活動一歩行訓練・作業活動 ② 園内活動一身边自立・清掃・調理実習</p>
(3) 就労支援	随時	<p>① 学校の実習に協力 実習先訪問・通勤指導・金銭管理指導</p>
(4) 強度行動障害特別処遇事業	1回/月 2回/月/ 1人	<p>・スタッフ会議 ・対象児童4名にプレイセラピーを実施</p>
(5) 健康管理	随時 24回 2回 12回 4回 1回 3回 1回	<p>① 通院 ② 精神科嘱託医の検診 ③ 内科嘱託医の診察 ④ 身長体重測定 ⑤ フッ素塗布 ⑥ 眼科検診 ⑦ 歯科検診 ⑧ 定期健康診断</p>
(6) 防災訓練	12回/年 6月12日 7月 3日	<p>① 避難訓練 (火災・地震想定) ② 地域防災懇談会 (横内市民センター) ③ 総合避難訓練 (前期45名)</p>

	10月 7日 7月 3日 10月 7日	(地域防災協力隊39名) ④ 総合避難訓練 (後期45名) ⑤ 非常通報訓練 (春) ⑥ 非常通報訓練 (秋)
(7) 研修	随 時	① 職場内研修・研究発表 ② 県内研修 ③ 県外研修
(8) 広報活動	3回/年	① 学園だより ② ホームページ ③ リーフレット配布 ④ 市町村訪問
(9) ボランティア	随 時	① 夏祭り、レクリエーション、余暇活動等
(10) 実習受け入れ	随 時	専門学校2 短大3 大学2 計 7校 実数15名 延数 212名

## 5 短期入所（指定短期入所事業）

(1) 利用児童等の状況（平成28年3月31日現在）

- ア 利用契約者数 30名
- イ 延利用児童数 43名

## II 多機能型障害児通所事業

1 利用児童の状況（平成28年3月31日現在）

(1) 放課後等デイサービス

- ア 定員（児童数） 10名
- イ 利用契約者数 47名（うち、親子指導利用児16名）
- ウ 延利用児童数 2,718名（うち、親子指導利用児108名）

(2) 児童発達支援事業

- ア 定員（児童数） 5名
- イ 利用契約者数 9名
- ウ 延利用児童数 56名

(3) 親子指導事業（県の委託事業）

- ア 定員（親子組数） 5組
- イ 延利用組数 184組
- ウ 利用児童数等

利用児数は放課後等デイサービスと児童発達支援事業に組み入れている。  
通所受給者証未所持者数の延利用数は68名となった。

### Ⅲ 多機能型事業所はっこう（就労移行支援事業・就労継続支援事業B型・生活介護）

#### 1 概要

##### （1）就労移行支援事業

一般就労を希望する一人ひとりの特性・能力に応じ、基礎トレーニング、実習等体験する機会を提供し、働く生活への移行を支援した。

##### （2）就労継続支援事業B型

働くことを希望する一人ひとりの特性・能力に応じた生産活動を提供し、働く意欲を育くんだ。

##### （3）生活介護事業

介護等配慮が必要な方に作業機会や余暇活動を通じて介護を行い、意欲的な活動を行う機会を提供した。

#### 2 事業実施状況

##### （1）利用者の状況

区 分	就労移行支援事業	就労継続支援事業B型	生活介護事業	計
（1）定 員	6	28	6	40
（2）平成26年度末現在の利用者数	7 (男7、女0)	30 (男21、女9)	新規事業	37 (男28、女9)
（3）平成27年度内の利用終了者数	5 (男5、女0)	6 (男3、女3)	0 (男0、女0)	11 (男8、女3)
（4）平成27年度内の利用開始者数	3 (男3、女0)	4 (男2、女2)	7 (男2、女5)	14 (男7、女7)
（5）平成27年度末現在の利用者数	5 (男5)	24 (男17、女7)	7 (男2、女5)	36 (男24、女12)

##### （2）各班の売上状況

(単位；円)

区 分	就労移行支援事業	就労継続支援事業B型	生活介護
（1）リサイクル班	593,775	1,735,141	531,330
（2）菜果班		883,605	
（3）ショップ班(新規)		9,309,731	
（4）請負班		3,052,629	
計	593,775	14,981,106	531,330

## (3) 工賃等の支給状況

(単位;円)

区 分	就労移行 支援事業	就労継続支援 事業B型	生活介護
(1)工賃(1人当 たり月平均)	9, 568. 1	8, 399. 1	6, 831. 1
(2)一時金(1人 当たり年平均)	14, 718. 7	43, 518. 2	10, 232. 0
(3)支給合計(1 人当たり年平均)	10, 865. 6	12, 657. 7	7, 709. 1

## (4) 職場実習・見学及び求職活動等の支援

## ① 企業等での実習

事業所等	人数	内容	期 間
商業施設 (農園)	3人 (移行3人)	農作業 (カシス)	7月15日～16日(2日間)
商業施設 (農園)	3人 (移行2人、B型1人)	農作業 (枝豆等)	8月5日～6日(2日間)
商業施設 (農園)	3人 (移行2人、B型1人)	農作業 (りんご)	9月24日～25日(2日間)
福祉施設	1人(移行)	清掃業務	8月10日～8月21日(10日間)
福祉施設	1人(移行)	清掃業務	8月24日～9月4日(10日間)
福祉施設	1人(移行)	清掃業務	9月7日～9月18日(10日間)
雑居ビル	1名(移行)	清掃業務	1月4日～1月15日(9日間)

## ② 求職活動

事業所等	人数	内容
就業・生活支援センター	2人(移 行)	登録
青森公共職業安定所	1人(移 行)	チーム支援登録

## (5) 行事関係

区分	レクリエーション	地域交流・保健、防災及び安全
4月	◎平内町清掃ボランティア(18日)	
5月	八甲田、津軽伝承工芸館見学(6日) 夢の森総会(16日) エルムの街買い物ツアー(31日)	保護者懇談会(23日)

6月		交通安全教室（29日：GH合同） 地域防災懇談会（10日）
7月	十和田湖一泊旅行（24～25日）	総合防災訓練（3日）
8月	津軽金山焼体験（2日） ホートセンターさつき運動会（22日）	
9月	アップワークボウリング大会 RABまつり（13日） ほっと音楽祭（26日）	横内地区防災訓練（26日）
10月	夢の森収穫祭（3日） 農作業体験（10日）	総合防災訓練（7日）
11月	ホートセンターさつき収穫祭（7日） 弘前買い物ツアー（28日）	感染症予防教室（12日） 事業所説明会（21日）
12月	忘年会（5日） 調理実習（12日） 育成会クリスマス大会（20日） 餅つき会（26日）	しめ縄づくり（14日） 年末大掃除（26日）
1月	新年会（9日） アップワークボウリング大会（16日） ワラッセ&のつけ井体験（23日） 調理実習（30日）	
2月	健康ランド温泉（7日）	
3月	慰労会（5日）	

（6）職員研修関係

学園内での勉強会や事務局主催の研修を始め、県内外の各種研修等に職員を派遣した。

（7）広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して利用を呼び掛けた。

#### IV 指定共同生活援助事業所サンハウス（指定共同生活援助事業）

##### 1 概要

利用者が地域で自立した生活を送るための拠点とし、利用者のニーズを的確に把握し、豊かな生活を送れるよう支援した。

##### 2 事業実施状況

###### (1) グループホームの設置状況

名称（地区）	設置年月日	定員
①サンハウス（緑）	平成 5 年 4 月 1 日	6
②第二サンハウス（蛭沢）	平成 6 年 4 月 1 日	5
③第三サンハウス（新城）	平成 8 年 4 月 1 日	5
④第四サンハウス（旭町）	平成 9 年 10 月 1 日	4
⑤第五サンハウス（中央）	平成 12 年 10 月 1 日	5
⑥うとうハイム（古館）	平成 13 年 10 月 1 日	5
⑦旭ハウス（大野）	平成 21 年 4 月 1 日	5
⑧第二うとうハイム（筒井）	平成 22 年 4 月 1 日	6
⑨桜ハウス（桜川）	平成 23 年 4 月 1 日	4
⑩紅葉ハウス（新城）	平成 24 年 10 月 1 日	5
⑪第二紅葉ハウス（新城）	平成 25 年 11 月 1 日	5
⑫おくのハウス（奥野）	平成 25 年 12 月 1 日	5
計		60

※ ⑤第五サンハウス（中央）については、平成 27 年 9 月 30 日まで平成 27 年 10 月 1 日より、（幸畑地区）へ移転となる。  
また、一軒家形式からアパート形式に変更となる。

###### (2) 利用者の状況

区 分	人 数
(1)定員	60
(2)平成 26 年度末現在の利用者数	59 (男 43、女 16)
(3)平成 27 年度内の利用終了者数	5 (男 4、女 1)
(4)平成 27 年度内の利用開始者数	2 (男 1、女 1)
(5)平成 27 年度末現在の利用者数	56 (男 40、女 16)



(3) 行事等

区分	内 容	地域行事
4月	◎ハッピーの会幹事会 ◎なつどまり清掃活動	
5月	◎横内町会清掃活動	
6月	◎チャリティビアパーティ引率	◎緑町会花植え参加
7月	◎八甲学園なつまつり ◎ハッピーの会大阪旅行 2泊3日 ◎ハッピーの会十和田湖旅行 1泊2日	◎戸山団地ねぶた運行参加
8月	◎GH連絡協議会利用者部会 清掃ボラ・BBQ交流会 ◎青森県障害者スポーツ大会	
9月	◎ハッピーの会食事会 ◎あおもりホット音楽祭	
10月	◎交通安全教室 全4回開催	
11月	◎避難訓練 ◎ハッピーの会ボウリング大会	
12月	◎クリスマス会	
1月	◎ハッピーの会新年会	
2月	◎避難訓練	
3月		

※「ハッピーの会」＝利用者の親睦組織

(4) 職員研修関係

法人内、学園内での研修会の他、グループホーム連絡協議会等の各種研修会に職員及び世話人を派遣した。

(5) 広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

### 第3 安生園

#### 1 概況

安生園の運営にあたっては、「関係法令」及び「当事業団の経営理念、職員倫理綱領」を遵守し、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った支援に努めてきた。

利用者が自立した日常生活を営むことができるよう介護予防体制を整えるとともに、要支援又は要介護状態の利用者支援にあたっては、併設の「ヘルパーステーションあんじょう」及び「居宅介護支援センターあんじょう」と連携しながら利用者の生活支援を推進した。

安生園では、ここ数年、利用者の定員割れといった状況が見られ施設経営に大きな影響を来していることから、施設の安定的な運営を確保するため利用者獲得として、青森市にある県・市営住宅、地域包括支援センター等への広報活動を積極的に実施し、少しずつ新規入所に結び付いてきてはいるが、満床には至っていない。そのため、来年度は、更に県内市町村の高齢者福祉担当者への広報活動に力を入れ、利用者獲得に努めたいと考えている。

#### (1) 養護老人ホーム安生園

平成27年度の入所者は、青森市15名、他市町村5名、計20名の入所があり、その内5名の利用者は家族からの虐待被害者となっている。また、青森市高齢者短期宿泊事業利用1名も被虐待であり、利用者の心のケアに配慮しながら支援に当たった。

退所者は13名、内、死亡退所4名(H26年度7名)、施設替え6名、長期入院2名となっており、例年に比べADLの低下による施設替えの退所が多くなっている。

また、利用者の状況として、利用者の高齢化(平均年齢80.3歳、80歳以上49名)、介護を必要とする者(要支援1・2が17名、要介護1～3が44名、要介護4が1名、要介護5が1名、計63名)、認知症、病弱者、精神疾患などにより共同生活の難しい方などの入所があり、従来の見守り支援に留まらず、きめ細かな専門的な支援が必要となっている。更に、虐待、触法高齢者などの受入もあり、ニーズの多様化と複雑化は顕著となっている。

近時は、歩行不安定な利用者が目立ち転倒防止のための歩行器やシルバーカーの利用が増えている。今年度は、利用者の転倒によるヒヤリ・ハット、事故報告が65件発生しており、骨粗鬆症疾患の方が万が一転倒した場合は大きな事故に繋がることから、利用者及び職員への注意喚起を徹底するなど転倒事故防止に努めてきた。また、骨粗鬆症疾患等、病弱者の医療面においても十分配慮しながら利用者の身体機能の維持に努めてきた。

## (2) ヘルパーステーションあんじょう

平成 26 年 2 月から福祉有償運送事業を開始し、総合的なサービスの提供が可能となり利用者の利便が向上したことで、利用者の獲得や収支の拡大など、経営の安定を図るため P R 活動を実施してきた。青森市内には訪問介護・介護予防訪問介護事業所が多数あり激戦区となっているが、徐々に実績が上がってきており、今年度末の契約者数は、訪問介護 52 人、介護予防 6 人となっている。前年度比では、延利用人員が 322 人の増、3,300 千円の増収となっている。今後も事業所の周知・広報啓発の強化を継続し、経営の安定化を図っていくこととしている。

## (3) 居宅介護支援センターあんじょう

平成 25 年 5 月から、主任介護支援専門員を配置し 3 人態勢とし、特別事業所加算Ⅱの算定が可能となったことから増収となり、独立採算体制が取れるようになった。今年度末の契約者数は 85 人、前年度比では、延利用人員が 21 人の増、1,100 千円の増収となっている。今後も事業所の周知・広報啓発の強化を継続し、経営の安定化を図っていくこととしている。

## 2 重点事項

- (1) 利用者の獲得
- (2) 利用者支援の強化（生きがい活動の促進、身体機能及び自立した生活の維持、安全確保と保健衛生の向上）
- (3) 地域交流の促進
- (4) 利用者の権利擁護の推進
- (5) 家族との連携強化

## 3 職員の状況

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

所 属	養護老人ホーム	訪問介護等支援事業所	居宅介護支援事業所	計
職員数 (人)	23	12	3	38

### 第3-1 養護老人ホーム安生園

#### 1 概況

養護老人ホーム安生園は、昭和26年の開設以来、老人福祉法の基本理念に基づき、利用者は長年にわたり社会の進展に寄与してきた方々として敬愛し、生きがいを持ち健全で安らかな生活を保障するとともに、利用者の権利擁護と意思決定を尊重しながら個々の支援計画に基づいた施設運営に努めてきた。

ここ数年は、歩行不安定な方など、要介護や認知症を患い入所する方が目立ち、併設する介護保険事業所等と連携した利用者支援を展開している。

また、入所に至る経緯も多様化し、虐待被害者、触法高齢者、精神病院からの受入先となっているほか、地域で生活することが困難な知的障害者や精神障害者等の受入先として地域のセーフティネットとしての役割を果たしている。

地域交流については、町会の一員として近隣町会の管理する花壇の整備や夏祭りに参加した。また、当園の地域防災協力隊に地域住民の方々に参画していただくなど、積極的に地域と関わっている。

生きがい支援策としては、出来る限り希望を叶えるべく聞き取り調査や自治会代表者会議で意見を求めて、各行事に要望等を反映させている。

#### 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

		園長	課長 (主任生活相談員)	主任	生活 相談員	看護師 支援員	臨時 職員	非常勤 職員	専任 当直員	計
総務課	男	1	1					医師1	3	6
	女			1		看護師1	栄養士1	医師1		4
高齢者 支援課	男				1	2				3
	女		1	1	2		4	2		10
計		1	2	2	3	3	5	4	3	23

#### 3 入退所の状況

(1) 定員	100人
(2) 平成26年度末現在の利用者数	89人
(3) 平成27年度内の退所者数	13人
(4) 平成27年度内の入所者数	20人
(5) 平成27年度末現在の利用者数	96人

## 4 運営方針

安生園の運営に当たっては、利用者の権利擁護と意思決定を尊重しながら個々の支援計画に基づいた支援を実施するとともに、居住環境の向上、生きがいを見出して生活できる環境づくりに努めた。

また、できるだけ自立生活が維持できるように介護予防体制を整えるとともに、要支援・要介護状態になった場合には、可能な限りその有する能力に応じて自立した園生活を送ることができるよう、居宅介護支援事業所や訪問介護事業所との有機的連携による介護サービスの利用を図った。

更に、利用者が地域の社会資源を活用しながら自立した生活を送ることができるよう支援していくとともに、地域福祉の拠点となるべく実習生やボランティアの受け入れ、地域交流による啓蒙、施設開放や近隣の地域活動に積極的に参加し地域との交流を深めた。

## 5 支援目標

- (1) 自立した生活形成のため、利用者個々の意向と状態を把握し、適切な支援につなげる。
- (2) 安全対策として、交通安全教室及び防災訓練等を通して防災意識の徹底を図る。
- (3) 利用者の健康診断及び予防接種等を通し、疾病の予防、早期発見・治療に努め、口腔衛生や手洗い等の励行による感染症予防等日常の保健衛生意識の向上を図る。
- (4) 介護予防のため、理学療法士等の協力を得て、グループや個別の運動メニューを作成し継続した実践に努める。
- (5) 生きがい作りと余暇活動が充実するように、地域の情報提供や個々の希望に適切に沿う支援とともに、クラブ活動の充実、自治会活動・懇談会等を通じて主体性を発揮できるような環境作りに努める。
- (6) 施設の資源解放と合わせて、利用者の生活圏を広げ、地域の一員として自立した生活が送れるように町会活動等に参加し交流を図るとともに、地域の社会資源の活用を図る。
- (7) 苦情解決事業による利用者の権利擁護に努める。
- (8) 利用者個々の意向を踏まえた外出や、家族交流の場を設定することにより安心して生活を送れるように努める。

## 6 事業の実施状況

### (1) 行事等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
各寮懇談会	月 1 回	延 5 0 8 人	
音楽療法	月 1 ～ 2 回	延 2 3 3 人	
自治会代表者会議	年 5 回	延 4 1 人	

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
コーヒーサロン	年4回	延110人	
ビデオ上映	月2回	延215人	
出張販売（6業者）	週1～2回	63人	食料品・日用雑貨、果物、パン、クリーニング等
利用者との集い	4/1		
自治会総会	4/1	63人	
輪投げ大会	6/17	44人	地域交流行事
地域交流懇談会	6/20	10団体	
納涼夏祭り	7/22	70人	地域交流行事
盆墓参	8/6	7人	三内霊園
敬老会	9/9	91人	
市内遊覧	10/9	5人	新町、アウガ
	10/23	2人	〃
ミニ運動会	10/14	36人	
リフレッシュ日帰り旅行	10/21	18人	弘前城、菊と紅葉まつり
文化祭	11/1	89人	
年忘れお楽しみ会	12/17	92人	
餅つき会	1/6	59人	
節分豆撒き	2/3	44人	
物故者慰霊祭	3/9	43人	
利用者との集い	3/31	58人	

(2) クラブ活動

名 称	実施回数	参加者数	備 考
茶 道	11回	延221人	
華 道	12回	延50人	
書 道	24回	延89人	
籐工芸	18回	延86人	
大相撲星取り	6回	延73人	
カラオケ	14回	延182人	

(3) 地域交流

交流等の相手	交流の内容	実施時期等	備 考
近隣町内会及び関係機関	意見交換等	6/20	安生園地域交流懇談会
	安生園納涼夏祭り	7/22	
虹ヶ丘町会	町会夏祭り参加	7/25	
北赤坂町会宝寿会	利用者との交流	6/17	安生園輪投げ大会
自由ヶ丘老友ほのぼの会			

## (4) 保健衛生

内 容		実施時期等	人数等	備 考
身長測定		年1回(4月)	全員	
血圧・体重測定		月1回	全員	
入浴		週3回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土
通院		週間計画表により実施	対象者	
第1回基本健診	結核検診	4/22	86人	
	採血	4/27	86人	
第2回基本健診(尿・血液・心電図)		10/19	90人	
嘱託医による保健衛生指導		7/31・10/30	59人	
歯科検診		6/11・18	23人	
歯科衛生指導		年4回	延49人	
内科問診及びインフルエンザ予防接種		11/6・13	81人	嘱託医
嘱託医による診療		月2回	対象者	内科
嘱託医による医療相談		月1回	対象者	精神科
感染症対策委員会		2回		
春の大掃除		5月		
秋の大掃除		12月		

## (5) 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
交通安全教室	5/21	33人	
夜間想定防災訓練	6/11	65人	
夜間防災訓練	7/11	96人	地域防災協力隊参加

## (6) 交流(慰問)・ボランティア

## ア 交流(慰問)

団体等名称	内 容	実施時期等	備 考
青森県立保健大	利用者との懇談	6/24	
明の星短期大学付属幼稚園	歌、踊り	9/14	
ボランティアサークル 「希望の会」	歌、踊り	5/22	
		11/11	
聖アルバン幼稚園	訪問(収穫物の提供)	11/9	
三内・奥内・西田沢保育園	歌、お遊戯、手遊び	1/20	
青森県立青森高等学校	合唱	3/12	音楽部



イ 招待

団体等名称	内 容	実施時期等	参加者数
青森県立青森第二高等養護学校	夏季芸術鑑賞会 陸上自衛隊 第9音楽隊	7 / 17	2人
青森市	ねぶた観覧	8 / 3	9人
青森県社会福祉協議会	明治大学マンドリン倶楽部 コンサート	9 / 3	2人
青森県長寿社会振興センター	あおもりシニアフェスティバル	9 / 13	8人
青森県立保健大学	大学祭参加	10 / 10	8人
青森スポーツ振興会	みちのくプロレス観戦	11 / 11	2人
青森放送株式会社	グランプリコンサート	11 / 15	4人
青森朝日放送株式会社	ミュージカル・キャロル	11 / 28	4人
青森県長寿社会振興センター	映画鑑賞「抱擁」	3 / 15	5人
平内町	夜越山洋ランまつり	3 / 17	4人

ウ ボランティア

団体等名称	奉仕内容	実施時期等	人 数
個人	茶道クラブ指導	年間	1人
	華道クラブ指導	年間	1人
	書道クラブ指導	年間	1人
	籐工芸クラブ指導	年間	1人
あすなろ友の会	行事の運営協力、除菌 用布の提供、清掃活動	年間	10人
青森市立佃中学校	サマーボランティア	7 / 23	12人
青森市立佃中学校	施設内環境整備	12 / 25	22人

(7) 地域福祉関係

団体等名称	内容	実施時期等	備 考
市内グループホーム(1施設)	音楽療法の開放	月1～2回	
青森県立第二高等養護学校	就業体験	年4回	コーヒーサロン

(8) 職員研修関係

外部の研修に職員を派遣したほか、所内で次の研修会を行った。

内 容	実施時期	参加者数	備 考
AEDの使用方法について	5 / 18	12人	
AEDの使用方法について	6 / 24	11人	新規のAEDの使用法 を確認する
「歩行補助具の使い方と転倒予防の ための評価」	6 / 29	10人	

内 容	実施時期	参加者数	備 考
「ロコモーショントレーニング」	7 / 14	7人	
夏の予防対策（熱中症、食中毒）	7 / 31	4人	利用者と合同
感染症について	10 / 30	11人	
合同研究発表会	12 / 2	13人	
誤嚥について	1 / 20	11人	
認知症サポーター口座育成	1 / 22	7人	
高齢者の虐待について	3 / 22	6人	
合 計		92人	

(9) 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月1回	
苦情解決協議会	年4回	

(10) 実習・実務研修等受入

依頼元（実習内容）	受入時期等	人 数
青森県立青森若葉養護学校（産業現場等における実習）	5 / 18～20	1人
青森明の星短期大学（介護福祉実習Ⅱ-B）	6 / 1～17	1人
青森県立青森第二高等養護学校（体験学習）	6 / 22・10 / 5 12 / 7・2 / 22	35人
青森県立青森第二養護学校（産業現場等における実習）	6 / 29～7 / 10	1人
青森県立青森西高等学校（インターシップ 就業体験学習）	7 / 23～24	1人
青森明の星短期大学（介護実習Ⅱ-C）	9 / 1～26	2人
青森県立青森第二高等養護学校（現場実習）	9 / 7～18	1人
青森県立青森中央高等学校（インターシップ）	9 / 29～10 / 1	2人
青森県自治研修所（新採用職員に係る体験学 習）	10 / 8	4人
	10 / 15	4人
	10 / 22	4人
	10 / 29	4人
	11 / 12	4人
法人内実施研修	9 / 1～11 / 26	11人
青森明の星短期大学（介護実習Ⅱ-A）	11 / 24～12 / 11	2人
合 計		77人

## 第3-II 老人居宅介護等事業安生園（ヘルパーステーションあんじょう）

### 1 概況

サービス利用者が前年度と比べて要介護利用者の述べ利用人数が 199 人増、介護予防利用者の述べ利用人数が 123 人増となり、利用者全体の利用人数は、計 322 人増となった。収入についても同一の建物内に 20 人以上居住する建物の定義から、10%の減算となっているが、要介護利用者の請求額が 2,869,860 円増、介護予防利用者の請求額が 433,450 円増、計 3,303,310 円の増となった。この背景には、新規の安生園利用者の利用増と、減算とならない外部利用者の述べ人数が増えたことがあげられる。

また、平成 26 年度に開始した福祉有償運送事業については利用が増えており、施設内外を問わず利用者の幅広い活動（通院や買い物等）の運送サービスの定着を目指し実施した。

平成 27 年度は、定例のヘルパーステーション内部研修を毎月実施した他、外部の研修へ非常勤ヘルパーを派遣し、他事業所との交流や、介護知識・技術等の質の向上に努めた。

### 2 職員の状況

（平成 28 年 3 月 31 日現在）

	管理者	サービス提供 責任者	臨時 訪問介護員	非常勤 訪問介護員	計
男	(1)				
女		2	1	9	12
計	(1)	2	1	9	12

### 3 運営方針

在宅で生活している高齢者及び安生園利用者が、要支援状態又は要介護状態になった場合に、入浴・排泄・食事・通院等の介助、洗濯・掃除等の家事などの支援を行うことにより、その利用者が可能な限り居宅及び安生園において、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるように努める。そのためには、介護保険認定者の訪問サービスの利用希望に対して、いつでも対応できる体制作りを図る。

また、要支援者に対しては、要介護状態への移行軽減や未然防止のために、介護予防を目的として日常生活上の支援に努める

### 4 重点事項

- (1) ニーズに即応したサービスの提供
- (2) 介護技術・コミュニケーション技術の向上
- (3) 福祉有償運送事業の定着と総合的なサービスの提供
- (4) 関連サービスとの連携

## (5) プライバシーの保護

## 5 事業概要

(1) 事業名 訪問介護事業・介護予防訪問介護事業・福祉有償運送事業

(2) 概要

在宅で生活している高齢者及び安生園利用者で、要支援・要介護者に対して指定訪問介護計画書に基づき、入浴・排泄・食事・通院等の介助、洗濯・掃除等の日常生活に必要な支援を個別に訪問して行う。

(3) 支援目標

ア 指定訪問介護及び介護予防訪問介護は、利用者の要介護状態の軽減、若しくは悪化の防止または、要介護状態にならないよう予防に資するように目標設定し、QOLの維持・向上を目指す。

イ サービス利用計画に基づいた適切なサービスに努める。

ウ 訪問介護等の提供に当たっては、懇切丁寧に行うとともに、利用者又は家族（身元引受人）に対し、サービスの提供方法等について理解できるように説明する。

エ 常に、利用者の心身の状況や置かれている環境等の的確な把握に努め、信頼関係を築く。

オ 自ら提供する指定訪問介護等のサービスの質の評価を行い、常にその改善に努める。

## 6 実績

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

合計		訪問介護		予防介護	
延利用人員 (人)	請求書発行額 (円)	延利用人員 (人)	請求書発行額 (円)	延利用人員 (人)	請求書発行額 (円)
6,700	23,953,910	6,173	22,229,760	527	1,724,150

(2) 福祉有償運送事業

	福祉タクシー	介護タクシー
走行距離 (km)	53.6	3399.7
利用人数 (人)	10	1,343
輸送回数 (回)	10	2,180
収入 (円)	13,300	402,000
収入合計 (円)		415,300

### 第3-Ⅲ 居宅介護支援事業安生園（居宅介護支援センターあんじょう）

#### 1 概況

利用者獲得のため関係機関等へのPR活動、また、各事業所、病院、薬局等へのパンフレット配布、設置を積極的に展開してきた。

安生園内の利用者については、施設職員との連携により身体機能の低下や介護予防のためのサービス利用を勧めているが、利用者数に大きな変化はなかった。

在宅利用者については、複数の地域包括センターからの委託契約依頼もあり、地域包括支援センターやサービス事業所・利用者家族等からの新規紹介により、利用者数が増加となった。

また、平成25年度から、主任介護支援専門員を配置した3人体制とし、特別事業所加算Ⅱの算定を行うことにより、大幅な収入増となっていたところである。引き続き平成27年度も特別事業加算Ⅲの要件を満たし、前年度と比較して、3.7%の増収となった。

#### 2 職員の状況

（平成28年3月31日現在）

	管理者 （主任介護支援専門員）	介護支援専門員	計
男			
女	1	2	3
計	1	2	3

#### 3 運営方針

在宅で生活している高齢者及び安生園利用者が、要介護状態又は要支援状態になった場合においても、可能な限りその居宅等において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように支援する。

#### 4 重点事項

- （1）介護保険及び事業所の周知・広報啓発の強化
- （2）各関係機関や近隣地域等とのネットワークの強化
- （3）ケアマネジメントの質の向上
- （4）主任介護支援専門員配置に伴う体制の強化
- （5）制度改正に伴う法令遵守

#### 5 事業概要

- （1）事業名 居宅介護支援事業
- （2）概要

介護保険において要介護と認定された方に対して在宅サービスの適切な利

用等が可能となるよう、要介護者の心身の状況や環境、意向等を勘案して居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、当該居宅サービス計画に基づく在宅サービスの提案が確保されるよう、事業者等との連絡調整を行う。

また、市町村からの依頼による認定調査、介護保険認定の申請・更新等の申請代行や介護に関する様々な相談に応じる。

(3) 支援目標

ア 利用者の心身の状況、その置かれている環境に応じ、利用者の選択に基づいた適切な保健医療サービス及び福祉サービスを多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮する。

イ 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者へ提供される指定居宅サービス等が特定の種類又は特定の居宅サービス事業者に不当に偏ることのないよう公正中立に行う。

ウ 市町村、在宅介護支援センター、他の指定居宅介護支援事業者、介護保険施設等の保健・医療・福祉サービスとの連携に努める。

6 実績

合 計		居宅介護計画		予防介護計画		住宅改修支援		認定調査	
延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (円)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人 員 (人)	請求書 発行 (円)
1,162	15,696,714	922	14,737,900	78	302,580	0	0	162	656,234

## 第4 障害者総合福祉センターなつどまり

### 1 概況

障害者総合福祉センターなつどまりの運営にあたっては、利用者の利益の保護、個人の尊重、意思の尊重、サービス向上と地域福祉支援を基本とし、関係機関との連携強化による事業の円滑な推進と基本理念に沿った利用者支援に努めてきた。

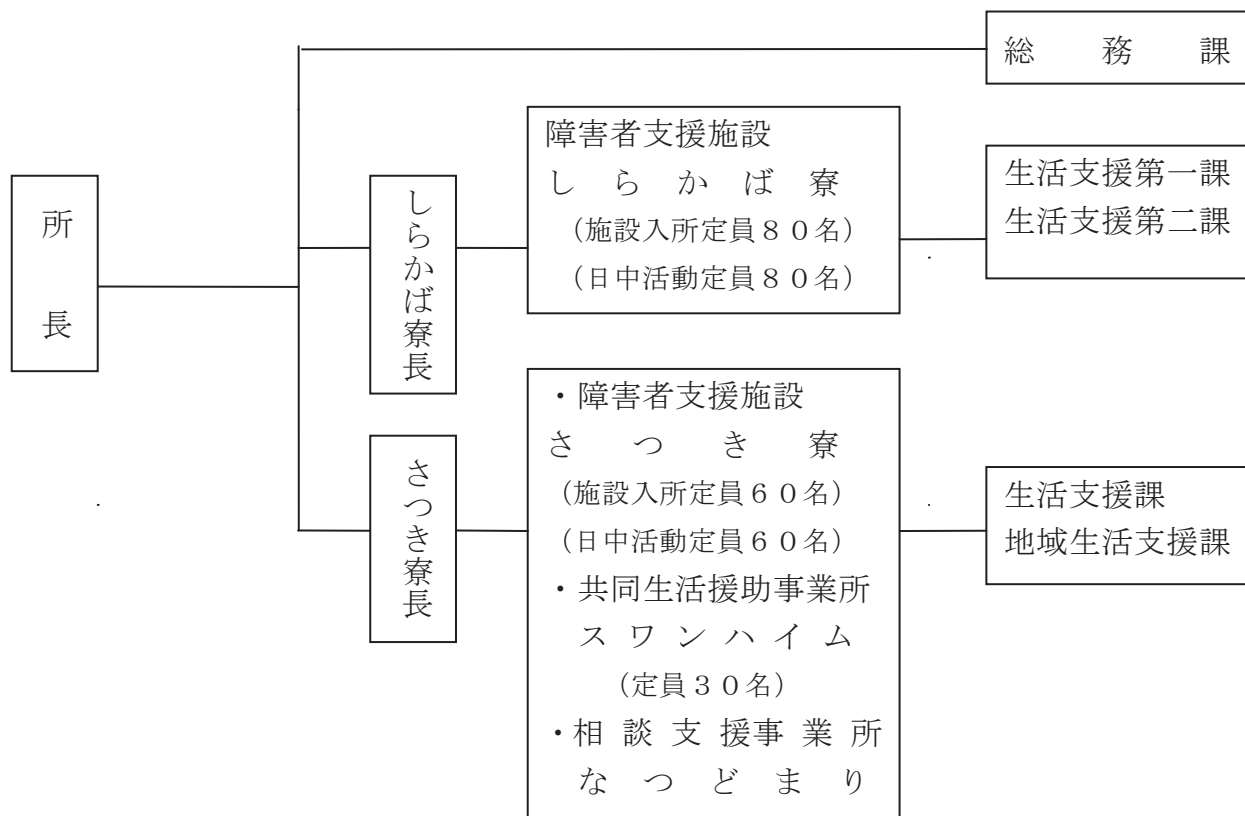
平成27年度にはさつき寮日中活動（生産活動）において「しいたけ栽培」に要するボイラーストープ設置の小屋から火災が生じ、これを機に危険箇所（発火要因箇所）の点検を実施し火災等に対する安全防火管理体制の強化に取り組んだ。

近年、利用者の高齢化が進んでおり、医療ケアの充実と共に医療関係や家族への積極的な連携を図った。また、家族との交流会や地域防災協力隊との総合避難訓練、防災士を招いての防災教育各種行事等、地域との交流を積極的に行った。

障害者総合支援法に沿った事業展開のため、障害福祉サービス等報酬改定に伴う加算導入の検討や、利用者の満足度調査の実施等で支援環境を整えると共に、職員研修の充実と資質の向上に努め、センターの安定運営を図った。

### 2 組織及び職員の状況

#### (1) 組織



## (2) 職員の状況

(平成28年3月31日)

所属 男女別	総務課	しらかば寮	さつき寮	合計
男	5	27	19	51
女	2	23	12	37
計	7	50	31	88

※1) 非常勤職員(専任当直員)は総務課として集計した。

2) 地域生活支援課(相談支援専門員含む)職員はさつき寮として集計した。

3) 嘱託医は除いた。

### 3 重点事項及び援助目標の実施状況

- (1) 利用者の権利擁護の推進
- (2) 利用者本位の支援の充実
- (3) 利用者の地域生活移行の推進及び在宅福祉サービスの充実
- (4) 危機管理体制の充実及び透明性の確保
- (5) 保健衛生の向上及び安全の確保
- (6) 各種事業展開のための地域社会、関係機関、家族等との連携強化
- (7) 各事業所の経営基盤確立及びサービス内容の充実強化
- (8) 障害者総合支援法の制度改正を考慮した施設の体制整備の推進

### 4 職員研修

利用者に最良の支援を提供するとともに、福祉サービスの質の向上及び職員の資質向上を図るため、職場内研修会(リスクマネジメント、誤嚥対策等)や研究発表会並びに専門研修として職場外派遣研修についても計画的な取組みを実施した。

また、職員個々の資格取得研修を推奨し、人材育成に積極的に努めた。

### 5 安全・防災管理

#### (1) 安全対策

利用者の安全確保を最優先として、利用者支援の向上を基本に安心・安全な日常生活が送れるように取り組みを実施し、また、各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、アクシデントレポート等の報告の早期提出を習慣化した。

#### (2) 防災管理

職員に対し非常時における対応について防災教育を行い、消防計画に基づいた防災訓練を実施した。また、地域防災協力隊と共に避難訓練を実施し連携強化を



図った。

また、施設における発火の恐れのある危険箇所等の点検を委託業者へ依頼し指摘事項等（改修を要する箇所）に対する対応（改修及びコンセント増設等）を速やかに行い防火管理体制の強化に努めた。

## 6 ボランティア・実習の受け入れ

実習について、人材育成の見地から出来る限り協力し受け入れを行った。また、ボランティアについても、積極的かつ計画的に導入し、施設の機能をより発展させるように受け入れを行った。

## 第4-I 障害者支援施設「しらかば寮」

### 1 概況

平成27年度は、「利用者一人ひとりが安心して、明るく楽しい生活が送れるように真心を持って支援します」を基本理念に掲げ、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じた自立した日常生活や社会生活が営めるよう基本方針を定め、より一層支援の充実に努めてきた。

障害者虐待防止についての全体研修を実施するほか、ユニットリーダーの研修を実施し職員の意識改革に努めた。また、昨年同様に権利擁護の推進のために、「事業団職員倫理綱領」及び「職員就業規則」並びに「福祉協会発行：知的障がいのある方を支援するための行動規範」等を朝の打合せにおいて音読し遵守の徹底を図った。

今年度の利用者の状況は、3名の方が肺炎等で亡くなり、3名の方が介護保険対象の施設へ移行となった。新入所では、八甲学園、もみのき学園と児童の施設から計4名の利用者が入所し利用者平均年齢が53.8歳となった。

昨年度は感染症が蔓延したことから、感染症予防対策の強化と食事面での誤嚥時対応策を目的に職員の研修会を数回にわたり開催し対策強化を図った。他に衛生面において、歯科衛生士の協力を得て利用者一人ひとりの口腔内の衛生に努めるとともに、洗面道具入れを新しく各ホームに設置することで衛生面の向上を図った。

職員研修においては、外部の研修へ積極的に参加を促し、認知症への対応や虐待防止、自閉症への対応等について内部研修も実施した。

その他、職員の資格取得の推奨に努めた結果、新たに6名の職員が国家資格を取得した。

### 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

職名 男女別	寮長	課長	主任支援員	副主任支援員	支援員	看護師	臨時支援員	非常勤	合計
男	1	1	2	1	4		14	2	25
女		1	1		4	2	16		24
合計	1	2	3	1	8	2	30	2	49

### 3 利用者の状況及び入退所の状況

	日中活動	再掲（施設入所支援）
(1) 定員	80人	80人
(2) 平成26年度末現在利用者数	77人	77人
(3) 平成27年度内退所利用者数	6人	6人
(4) 平成27年度内入所利用者数	7人	7人
(5) 平成27年度末現在利用者数	78人	78人
(6) 年齢別利用者数	(平成28年3月31日現在)	

男女別 年齢別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
18～29	9	1	10				9	1	10
30～39	4	5	9	1		1	5	5	10
40～49	4	3	7				4	3	7
50～59	3	8	11	3	2	5	6	10	16
60～69	3	3	6	8	8	16	8	11	22
70～79				3	6	9	3	6	9
80以上				3	1	4	3	1	4
計	23	20	43	18	17	35	41	37	78
平均年齢	37.8	48.3	42.7	66.2	67.8	67.2	50.3	57.28	53.8

(7) 障害程度区分別利用者数 (平成28年3月31日現在)

男女別 程度別	一課（一般棟）			二課（高齢者棟）			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
非該当									
区分1									
区分2									
区分3				1	3	4	1	3	4
区分4	5	5	10	3	4	7	8	9	17
区分5	5	1	6	5	6	11	10	7	17
区分6	13	14	27	9	4	13	22	18	40
計	23	20	43	18	17	35	41	37	78

## 4 運営方針

「しらかば寮」は、これまで、利用者の皆さんがその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、一人ひとりの人権を尊重しつつ、施設を潤いと生き甲斐のある生活の場にするためサービス提供に努めてきた。

平成27年度の運営にあたっては、国の新たな福祉施策の見直しや変更等の状況を的確に把握し、さらに法令順守の徹底と権利擁護を推進するとともに、利用者のニーズに添った具体的な支援サービス、及び支援目標の達成に向けた必要な福祉サービスの提供に努める。

近年、利用者の高齢化に伴う機能低下が著しく、歩行困難、認知症と思われる症状や医療的配慮が必要など、多方面からの複雑な支援が求められるようになったことから、これまで以上に良質かつ適切なサービスの実践に取り組むとともに、事業運営の透明性の確保を図りながら、関係機関や地域、家庭との結びつきを重視した開かれた事業所として一層の充実に努める。

また、施設管理の適切な維持保全に努めながら、利用者が安全に安心してより快適に暮らせるよう生活環境の整備を図る。

さらに、各事業の安定的な運営を行うために、利用率の向上に努めるとともに、経費節減など適正な予算執行に取り組む。

## 5 重点目標

- (1) 利用者の人権尊重、権利擁護及び虐待防止の一層の推進
- (2) 利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実
- (3) 日中活動系サービス及び居住系サービスの質の向上
- (4) 苦情相談への適切な対応
- (5) 医療・看護ケアの充実並びに安全の確保
- (6) 家族等との連携強化
- (7) 施設・環境の整備
- (8) 事業運営の透明性の確保
- (9) 地域社会との連携

## 6 事業の実施状況

- (1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、生産活動の機会の提供などを行った。

### ア 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、支援目標の達成に向けた支援を実施した。

### イ 班編成による創作的活動、生産活動の支援の実施

#### ① リサイクル班

作業小屋が雪の被害により破損したため窓や床の改修工事を行い作業環

境を整えた。また、リサイクル資源を面会日等に保護者の方々から持参いただき確保し、他に職員の協力もあり継続した生産活動を提供することができた。作業内容についても、個々の特性・能力に応じて役割を分担し集中出来るよう物理的環境の整備をするとともに安心、安全に作業を進められるよう配慮してきた。

## ② 創作班

塗り絵や作品作り（フォトフレーム、松ぼっくりのクリスマスツリー、ビーズブレスレット）、パズルやブロックを使った手指運動、体育館でのマラソンやトランポリン運動など、個々の支援程度の差や老化等に合わせた内容で実施した。

## ③ 生活リズム班

ADL等の自立度による個別支援に沿った歩行、リズム遊び等を通して健康面への配慮や体力維持、怪我の予防等に考慮し実施した。また、体育館での運動を取り入れるなど活動の幅を広げた他に音楽鑑賞、ブロック、スノーズレン、屋外歩行、ライトコートでの日光浴や花や野菜を栽培する園芸療法にも取り組んだ。

## ④ 介護予防班

曜日ごとに活動内容を変え、風船バレーや輪送り等の全体レクリエーション、利用者のADLや障害特性に配慮し、ブロック、パズル、寮内歩行など個々に合わせた個別リハビリテーション、カラオケやDVD鑑賞等の趣味活動を実施した。また、天気の良い日には屋内歩行を実施した。

## ウ 健康衛生の向上

### ① 生活習慣病の予防と対策

生活習慣病を予防するため、肥満者を対象に肥満食を提供し、毎月体重測定を行った。また、利用者の高齢化に伴い、生活習慣病と共に廃用症候群等の出現への対応が課題となってきている。特に糖尿病、脂質異常を発症する人が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し予防に努めた。

また、年2回血圧測定、尿検査実施し、疾病の早期発見に努めた。

### ② 医療状況

- ・ 嘱託医診療 対象者～全員
- ・ 精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回（金曜日）

### ③ 検診状況

- ・ 対象者 全員
- ・ 検診内容 血液検査・心電図・結核検診・血圧測定：年2回、尿検査：年2回、耳鼻科検診・歯科検診：年1回、各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ本人負担）：年1回

④ 感染症予防対策

各棟に手指消毒器を設置したほか、感染性胃腸炎の予防とまん延防止対策として、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、小型噴霧機、処理マニュアル）を準備し、感染症マニュアルに沿った感染予防に努めた。また、各ホームに医療一覧、感染症発症時対応マニュアル、応急手当マニュアル等を備え、職員研修も実施し対応方法の周知を行い、利用者の健康管理に努めた。

⑤ 通院状況

通院状況			服薬者状況	
区分 科別	実人員	延回数	区分 科別	実人員
内科	71	658	内科	42
精神科	54	609	精神科	50
耳鼻科	2	11	耳鼻科	0
歯科	20	155	歯科	0
皮膚科	3	8	皮膚科	0
外科	4	22	外科	1
整形外科	25	183	整形外科	10
眼科	4	9	眼科	0
泌尿器科	9	110	泌尿器科	4
乳腺外科	3	4	乳腺外科	3
合計	195	1,769	合計	110

⑥ 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病名
内科	14	256	肺炎（誤嚥性肺炎含む）・不明熱・PEG交換・尿路感染・肺炎、腎盂腎炎・脱水
外科(婦人)	1	12	
整形外科	1	132	左大腿頸部骨折
精神科	1	9	心因反応
合計	17	409	

## エ 音楽療法の実施

### ① 実施日

- ・一課（一般棟）→月2回 水曜日の午前 グループセッション（7名）  
個人セッション（1名）
- ・二課（高齢者棟）→月2回 火曜日の午前 グループセッション  
（35名）

### ② 実施場所

- ・一課（一般棟）→多目的室及び面会室
- ・二課（高齢者棟）→二課食堂

## オ スヌーズレン活動

スヌーズレン(感覚刺激活動)については、人間が持つ五感への適度な刺激を与えることで、リラックスを促し感覚の成長を促進させるものである。

利用者が自分の時間を持ち、感じ方や喜びを支援者と共感する等、より良い生活環境をとおして不適応行動の抑制や情緒の安定に努めることを目的とし、二課の訓練指導室に個別の環境をセッティングして実施した。

## カ 個別及びグループ毎の外出の支援

利用者の外出希望になるべく沿うように、各催し物等の開催状況を掲示したりして計画し、公用車を使用して実施した。一番多かったのは青森市内での買物・外食であった。

## (2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、日常生活上の支援を行った。

### ア 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、支援目標の達成に向けた支援を実施した。

## イ 余暇活動・趣味的活動等の充実

### ① 個別及びグループ毎の外出の支援

公用車（マイクロバス等）を利用し、土・日小湊地区（マックスバリュ平内店など）を中心に買物等を計画し実施した。なお、理容等の個別外出については希望に応じて随時実施した。

### ② 招待外出

4月29日「みちのくプロレスリング」の招待を受け、男性2名の利用者が観戦した。また、3月には夜越山洋ラン祭りへ4回に渡り17名の利用者が招待を受け参加した。

### ③ 外部講師による活動の支援

#### ・書道

実施日：月2回（第2、4金曜日）18：45～19：30

一課利用者1名、二課利用者10名が参加した。



## ウ 生活環境の整備

### ①リネン・寝具交換

平成24年度より、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。

シーツ等1回/週、タオルケット・肌掛けカバー1回/月、布団カバー1回/月、掛け・敷き布団1回/年の交換を行った。

### ②洗顔用具等の洗浄

歯ブラシ、コップ等の消毒、洗浄を週1回行った。

### ③居室等の大清掃

春の大掃除と年末のすす払いを行い居室等の大清掃を2回行った。また外部業者による特別清掃は年6回実施した。

### ④室温等の管理

空調完備のため快適に過ごすことができた。また冬期間の乾燥対策としては、各ホームに加湿器を配置し湿度等の調整を行った。

## (3) 利用者の権利擁護の推進

### ア 苦情相談システムの利用促進

苦情件数については10件であったが、複数件の苦情申し出があったこともあり、以下の表のとおりであった。

苦 情 内 容	件数
サービスの質や量(食事内容、サービス提供に関する不満など)	2
利用者の人間関係など	6
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	1
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	0
その他(被害/損害/病気/怪我/医療面等他上記以外のもの)	1
合 計	10

### イ 利用者への情報公開・情報提供の充実

掲示板の活用や口頭での情報提供を行った。また、写真やパンフレット等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用した。

### ウ 基本的権利行使への配慮

選挙については、希望者を対象に選挙所へ出向き投票を行った。

## (4) 地域交流

今年度も予算を計上していたが、小学校側との行事計画が折り合わず、実施されなかった。

## (5) 家族との連携

利用者が心豊かな生活を営み過ぎていくためには、ご家族の理解と協力が不可欠であるため、月の第三日曜日に面会日を設定したほか、一時帰宅等についても可能な範囲での協力を願った。



ア 利用者個別支援計画について

利用者個々の支援計画については、その内容をご家族と十分協議しながら設定した。また、支援経過についても面会日等を通じて随時家族に説明した。

イ 面会日等における対応

- ① 4月19日（日）全体懇談会と支援計画等について個別懇談
- ② 9月13日（日）支援計画に基づいた支援状況の報告についての個別懇談
- ③ 11月15日（日）なつどまり研究発表会と支援計画等について個別懇談
- ④ 3月6日（日）全体懇談会と支援状況報告と支援計画立案についての個別面談

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、インシデント、アクシデントレポート等の報告書の作成と提出を習慣化し、朝会及び寮会議において報告を義務付けし対応した。

事 故 内 容		アクシデント 件数	インシデント 件数
医療関係	急病（救急車搬送等）	2	0
	誤飲・誤嚥	3	4
	誤与薬	4	0
	その他 （医療機関への連絡ミス）	9	3
事故関係	転倒・衝突（救急搬送）	1	0
	転倒・衝突（通院・入院）	8	0
	転倒・衝突	18	16
	その他 （打撲、飲みこぼし、不明）	5	4
介護関係	転倒（通院・入院）	6	0
	転倒	0	12
	異食	4	0
	残薬、落薬、飲み忘れ	0	15
	その他 （バルン抜去、爪切りによる創傷、配薬ミス等）	6	55
外出関係	無断外出（敷地外）	0	0
	集団離脱（敷地内）	1	0
利用者関係	他害	2	3
その他（支援員室、他室への侵入）		0	5
合 計		69	117

(7) 職員研修

なつどまり内での研修会を開催し障害の理解向上に努めるとともに、事業団事務局が主催する法人内研修と他団体主催の県内外の研修等に参加した。

(8) 行事の実施状況

内 容	実施期間	参加人数	備考(行先など)
招待外出	4月29日	2名	みちのくプロレス
たのしみっこ	4月29日	全利用者	
花見会	5月10日	全利用者	
一課外出	5月19日	1名	ラ・セラ カルビ広場
二課外出	5月22日	2名	夜越山
春の大掃除	5月24日	全利用者	
一課外出	5月25日	1名	サンデー浜田店 他
一課外出	5月28日	1名	マエダアリーナ 他
二課外出	5月29日	2名	夜越山 マックスバリュ
たのしみっこ	5月30日	全利用者	
二課外出	6月9日	1名	ゆ〜さ浅虫 他
一課外出	6月10日	1名	大勝軒 (ラーメン)
一課・二課外出	6月15日	3名	大島ドライブ
二課外出	6月17日	4名	ラーメン熊 ラ・セラ 他
一課外出	6月23日	1名	びっくりドンキー 他
一課外出	6月27日	1名	コンビニ
たのしみっこ	6月28日	全利用者	
二課外出	6月29日	2名	かっぱ寿司 他
二課外出	7月8日	2名	ほたて広場 他
一課外出	7月23日	1名	市営球場 サンロード
なつまつり	7月25日	全利用者	
二課外出	7月31日	3名	サンロード
一課外出	8月12日	2名	シニアハウスすぎる 他
一課外出	8月13日	6名	マックスバリュ 他
二課外出	8月20日	3名	ラ・セラ
納涼会	8月22日	全利用者	
一課外出	8月23日	1名	サンロード ツタヤ
一課外出	8月29日	2名	マックスバリュ
障害者スポーツ大会	8月30日	12名	

たのしみっこ	8月30日	全利用者	
長寿を祝う会	9月6日	全利用者	
ブラッシング指導	9月12日	二課全利用者	
二課外出	9月20日	2名	大島ドライブ
一課外出	9月21日	6名	大島ドライブ
二課外出	9月21日	1名	大島ドライブ
たのしみっこ	9月26日	全利用者	
一課外出	9月27日	6名	大島ドライブ
みんなデー	10月4日	全利用者	
二課外出	10月15日	2名	サンロード
一課外出	10月16日	1名	サンロード
一課外出	10月17日	5名	マックスバリュ
一課外出	10月22日	2名	かっぱ寿司野辺地店 他
二課外出	10月23日	1名	ラ・セラ 他
ミニ運動会	10月24日	全利用者	
二課外出	10月24日	2名	大島ドライブ
一課外出	10月25日	6名	大島ドライブ 他
一課外出	10月26日	2名	ラ・セラ
二課外出	10月26日	1名	サンロード
一課外出	10月27日	1名	しまむら
一課外出	10月31日	1名	丸亀製麺 ダイソー
かわつま 買い物体験	11月8日	全利用者	かわつま(衣料店) 来寮
二課外出	11月15日	2名	マックスバリュ
一課外出	11月17日	2名	ラ・セラ
一課外出	11月26日	1名	サンロード
支援グッズ販売	11月29日	全利用者	Bird 来寮
一課外出	11月30日	2名	浜館(西松屋・ガスト)
利用者忘年会	12月6日	全利用者	
一課外出	12月9日	2名	まるまつ コンビニ
一課外出	12月11日	2名	サンロード
たのしみっこ	12月13日	全利用者	
二課外出	12月18日	1名	鶴亀食堂 コンビニ
ブラッシング指導	12月19日	一課全利用者	
クリスマス会	12月20日	全利用者	
正月っこ	1月9日	全利用者	
雪見会	1月17日	全利用者	

一課外出	1月20日	1名	ラ・セラ
たのしみっこ	1月24日	全利用者	
節分会	1月31日	全利用者	
たのしみっこ	2月21日	全利用者	
一課外出	2月29日	1名	鶴亀食堂 コンビニ
二課招待外出	3月2日	5名	夜越山洋ラン祭り
一課招待外出	3月4日	5名	夜越山洋ラン祭り
二課招待外出	3月7日	4名	夜越山洋ラン祭り
一課招待外出	3月8日	3名	夜越山洋ラン祭り
一課招待外出	3月11日	6名	夜越山洋ラン祭り
一課招待外出	3月14日	5名	夜越山洋ラン祭り
たのしみっこ	3月21日	全利用者	

(9) 日中一時支援事業

ア 概況

平内町から委託を受け、土・日・祭日、学校等の長期間の休業日に利用する方が、必要とする時間帯に施設内で過ごし活動支援を行ってきたが、これまで利用していた方が進学により施設へ入所となったことから利用が減っている。

イ 利用状況

利用件数 0件 延べ日数 0日間

第4-II 短期入所事業しらかば寮

1 概況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、併設型として短期利用居室を提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業所としてきた。

2 利用状況

利用件数 2件 延べ日数 8日間

#### 4-Ⅲ 障害者支援施設「さつき寮」

##### 1 概況

平成27度は、利用者の人権尊重と権利擁護を推進していく事を基本理念と基本方針に掲げ、社会自立の促進及び在宅福祉サービスの充実に努めてきた。

権利擁護の周知ために「事業団職員倫理綱領」「基本理念」等を職員の朝の打ち合わせ後、音読して遵守の徹底を図り、障害者虐待防止に対する意識啓発を継続している。また、12月からは「SDS（自己啓発）チェック表」の記入を開始し更なる意識啓発に努めている。

生活介護事業の日中活動は、4班体制を組み、創作活動やADLの向上を目指したプログラムを工夫したゆとり班、利用者の「働く意識」を育て、人としての活力を持たせられるように、加工班(銅線加工・古紙分別)、きのこ班(シイタケ栽培)、クリーニング班(衣類クリーニング)を継続し、作業活動班に対しては、工賃を支給してきた。新たに10月からは、ゆとり班の活動内容に加工班の一部を加え、工賃支給を行った。

職員の専門性の向上を高めるために、自閉症基礎講座や虐待防止についての研修への参加と継続して資格取得を推奨した中で国家資格を2名が取得した。

##### 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

職名 男女別	寮長	課長	主任技員	副主任 支援員	支援員	看護師	臨時支援員	合計
	男	1		1		4	1	9
女		1	1	1	2	1	4	10
計	1	1	2	1	6	2	13	26

##### 3 利用者の状況

###### (1) 入退所の状況

(平成28年3月31日現在)

年度	内 容	日中活動	施設入所
26	定員	60	60
	新契約者数	1	1
	解除者数	3	2
	年度末利用者数	65	60
27	定員	60	60
	新契約者数	1	1
	解除者数	2	2
	年度末利用者数	64	59

## (2) 年齢別利用者数

(平成28年3月31日現在)

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19	0	0	0	0	0
20～29	11	0	0	1	12
30～39	5	4	0	0	9
40～49	6	2	1	0	9
50～59	11	7	2	0	20
60～以上	8	5	1	0	14
合計	41	18	4	1	64
平均年齢	45	51	54	23	43
最高年齢	71	75	66	23	
最低年齢	20	33	43	23	

## (3) 障害支援区分別利用者数

(平成28年3月31日現在)

障害支援区分	入所利用者	通所利用者	合計
非該当	0	0	0
区分1	0	0	0
区分2	1	0	1
区分3	9	0	9
区分4	31	4	35
区分5	15	1	16
区分6	3	0	3
未判定	0	0	0
合計	59	5	64

## 4 運営方針

「さつき寮」は、利用者一人ひとりの人権と意思を尊重し、障害の特性その他の事情を踏まえ、適正かつ効果的な支援の提供に努めてきた。

高齢に伴う認知機能の低下（認知症傾向）や医療的配慮が必要な利用者、自閉傾向による行動障害を呈している利用者の増加が顕著であり、良質なサービス提供のため、体制の整備と専門的知識の取得のため研修に力を入れてきた。

また、障害者虐待防止法については「なつどまり虐待防止対応規程」の周知徹底に努め、「虐待は絶対許さない施設づくり」を実現するとともに、利用者の権利擁護の推進と利用者自治会活動などエンパワーメントに努めた。

さらに、目まぐるしく変化する障害福祉施策の変化に対応し、法令の遵守に努めるとともに、市町村及び関係機関と連携を図り、地域にある事業所として在宅福祉・地域福祉の充実を図った。

## 5 重点事項

### (1) 利用者の人権尊重及び権利擁護の推進強化

利用者の人権尊重と権利擁護の推進、虐待防止に努め、職員の意識啓発を継続している。また、「自閉的傾向の強い利用者の支援」として、昨年より1名追加し、5名の職員が年間を通し研修を重ね支援の強化を図ってきた。

### (2) 利用者本位のサービスの提供

利用者生活満足度調査の実施や個別旅行の希望の受入れ、更には外出等の意向など利用者自身が求める話し合いを強化し、安心、安全な寮生活を送ることができるようサービスの提供に努めた。

### (3) 利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実

個別支援計画の作成においては、一人ひとりの特性やニーズを把握し、個々の目標に即した支援ができるように努めた。

### (4) サービスの質の確保・向上

サービスの質の向上では、余暇支援、旅行、クラブ活動等、余暇活動の充実に努めている。更に、寮内の空間を利用し観葉植物の鉢植えを置き、潤いと安らぎの提供をした。鉢植えの世話は利用者からの希望もあり植物の効果を感じさせている。

### (5) 地域交流・地域開放の推進

地域交流の開始は毎年春の清掃奉仕から開始される、地元駅周辺から施設までの道を行う。また、27年は豪雪による、除雪奉仕を地域の集会場で開催して頂くことができた。

寮内行事の餅つき会では毎年、地域婦人会のご協力を頂いて楽しく行事を進めることができた。

### (6) 利用者への安全確保とリスク対策

安全の確保及びリスク対策では、生活習慣病の予防や事故防止に努め保健衛生の向上と安全対策の徹底に努めた。

利用者の平均年齢は45歳となり、50歳以上が50%。最高年齢は男子70歳、女子75歳である。身体機能低下及び認知症傾向のある利用者支援については早い時期から検討委員会を設け、看護師の協力を得ながら研修、学習会を続けている。骨密度の検査の実施、万歩計を利用し、運動量の増加を図った。

### (7) 利用者自治会活動の推進

利用者による自治会活動は集会を重ねるごとに意見は活発になり、なつどまり内の行事の準備や舞台出演の希望など様々な意見が聞かれた。

## 6 事業の実施状況

### (1) 日中活動系サービスの実施状況（生活介護）

#### ア 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、



毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

#### イ 開所日の設定

日常生活としての買物、社会見学、社会参加（ボランティア等）余暇活動（温泉入浴・カラオケ等）を開所日として支援を行った。

#### ウ 班活動

##### ① ゆとり班

利用者が無理なく活動に参加できるよう、楽しみ（創作・調理・散策等）を中心に活動を展開した。個別支援として女子利用者への洗濯支援を実施しADLの向上に努めた。また、加工班の一部活動に参加する機会も作り、作業体験を重ねてきた。これにより10月から工賃を支給したことにより、作業意欲が見られている。

##### ② 加工班

利用者が働く（作業する）ことで生活にメリハリと潤いを持たせながら、活動支援を行った。

27年度は、古紙選別、銅線加工の他に、ホタテのピン刺し等新たな作業もできた。それぞれの特性に合わせ無理のない作業活動を続けている。

##### ③ きのこ班

椎茸生産量の状況に合わせ、販売・納品の効率を図ることに努めた。利用者の作業効率も良く、良好に活動している。

##### ④ クリーニング班

施設内利用者のリネン類・衣類等に対応している。衣類等の受け入れを曜日毎に整理徹底することで、作業の効率化を図った。

### (2) 居住系サービスの実施状況（施設入所支援）

#### ア 余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援のほか、書道教室及びみんなデーに向けた作品の作成等、余暇支援を行った。

### (3) 健康管理

#### ア 医療状況

医療体制は、嘱託医（精神科）1名と内科医への受診（月1回 引地内科）看護師4名で健康管理の充実に務めた。他に、通所部5名の健康管理も含め利用者全般の健康維持の推進に努めた。緊急時対応として応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、指導員室に備えると共にAED（職員は全員AED講習受講済み）と誤嚥、のどつまり時対応用に口腔吸引ノズル付き掃除機（掃除用とは別の掃除機であり、職員は全員講習受講済み）と吸引器を職員室に設置し緊急時の対応に備えた。

疾病の早期発見、早期治療として、各癌検診（胃癌、大腸癌、子宮癌、乳癌）の他、結核検診、心電図（年2回）血液検査（年2回）尿検査（年2回）血圧



測定（降圧剤服用者は毎日 他は年2回）を実施している。結核検診、心電図、血液検査、尿検査、血圧測定は施設負担にて行い、各癌検診は、希望を募り、かかる費用は本人負担としている。

27年度のインフルエンザは、早い時期からのマスク着用と手洗い、うがいの励行により罹患者は出なかった。

ノロウイルス、急性胃腸炎は居室を初めとする生活空間に次亜塩素酸水を毎日噴霧することと、消毒清掃の継続等により発症者は出なかった。

口腔ケアとして歯科医による往診での歯科検診（しらかば寮と隔年で行い、費用は施設負担）を実施した。その他、歯周病、虫歯予防として食後の歯磨き指導、介助歯磨きを行っている他、今年度は2回青森市歯科衛生士会の協力で利用者の歯磨き指導と職員の仕上げ磨き講習をしました。また、各寮に医療一覧、感染症発症時対応マニュアル、等を備え利用者の健康管理に努めた。

なお、利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であると共に、廃用性症候群の出現等対応の課題となってきた。特に脂質異常を発症する方が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩、間食のとり方を見直し標準体重に近づけることを目標とする。

① 嘱託医診療：対象者～全員

精神科（つくしが丘病院） 月2回（第2、第4金曜日）

② 検診：対象者～全員

血液検査、心電図（年2回） 結核検診（年1回）

血圧測定 尿検査（年2回）

各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ本人負担）

③ インフルエンザ予防対策 対象者～全員

インフルエンザワクチンの接種（施設負担）、抗菌マスク、微粒子マスクを用意しマスクの励行を指導。含嗽剤でのうがい、手洗い、アルコール手指消毒器の使用、換気、大型加湿器による環境整備を行い予防対策に努めた。また使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し発症時対応に備えた。

④ その他

手指消毒器をホール、廊下に設置して手指消毒指導し、朝、夕に食堂のテーブル、イス、床、手すり、ドアノブ、スイッチ類の消毒清掃を行い食中毒などの感染症の予防対策を強化した。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、次亜塩素酸水を居室、ホール、トイレ、廊下に毎日噴霧している。また、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、嘔吐物凝固剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、小型噴霧機、処理マニュアル）を各棟に用意し感染症マニュアルに沿って感染予防に努めた。

⑤ 各癌検診の状況

検診名	要精密検査者	内 訳
胃 癌	2名	2名共再検査し異常なし
大腸癌	5名	4名は再検査し異常なし、1名経過観察中
子宮癌	0名	
乳 癌	0名	
結 核	2名	2名共再検査し異常なし

(4) 通院・服薬者状況

通 院 状 況			服 薬 者 状 況	
区分 科別	実人員	延回数	区分 科別	実人員
内科	49	454	内科	28
内分泌内科	1	5	内分泌内科	1
精神科	33	481	精神科	34
耳鼻科	2	15	耳鼻科	0
歯科	28	137	歯科	0
皮膚科	3	14	皮膚科	1
外科	3	8	外科	0
整形外科	13	27	整形外科	4
眼科	5	15	眼科	0
泌尿器科	4	57	泌尿器科	1
脳神経外科	1	1	脳神経外科	0
婦人科	2	2	婦人科	0
消化器内科	1	4	消化器内科	0
循環器科	3	3	循環器科	0
呼吸器科	2	2	呼吸器科	0
合計	150	1,225	合計	69

(5) 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病名
精神科	3	167	適応障害、統合失調症、心因反応
総合診療科	1	24	低ナトリウム血症
循環器科	1	26	心不全
外科	2	46	甲状腺亜全摘術、腹部創
合計	7	263	

(6) 肥満状況

	男	女	合計
18.5未満(やせ)	4	0	4
18.5以上～25未満(正常)	20	14	34
25以上～30未満(肥満1)	16	1	17
30以上～35未満(肥満2)	1	3	4
35以上(肥満3)	0	0	0
合計	41	18	59

・BMIの数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。

$$BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)})$$

(7) 利用者の権利擁護の推進

苦情解決事業の第三者委員(3名)の輪番制による相談日のほか、随時相談を受け付けた。相談は主に3名の利用者から11回の相談があった。内容は「他利用者への不満」、「給食内容について」「個人的な悩み」等であった。

(8) 地域交流

ア 小中学校・高等学校との交流の積極的実施

今年度は下記のとおり各校との交流を実施した。

日時	内容	利用者数	引率者数
5月16日	西平内中学校運動会	7名	2名
5月23日	山口小学校運動会	8名	2名

イ 地域への奉仕活動の充実

4月19日、平内町役場が主催する夏泊半島の道路のゴミ拾い活動に事業団職員・さつき寮利用者が合同で参加した。

(9) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、支援会議等で検討するとともに利用者の事故防止に努めた。

<アクシデントレポートの提出状況>

事 故 内 容		件 数
医療関係	急病(救急車搬送等)	0
	誤飲・誤嚥	2
	誤与薬	3
事故関係	転倒・衝突(通院・入院)	0
	転倒・衝突	0
	その他	0
介護関係	転倒・衝突(通院・入院)	0
	歩行不安定による転倒	15

外出関係	無断外出（敷地外）	0
	集団離脱（敷地内）	0
利用者関係	他害・器物破損	0
その他	打撲・自傷・擦り傷	15
合計		35

(10) 家族との連携強化

毎月の面会日を実施し、年3回（4月・10月・2月）の家族との懇談会を開催し利用者支援についての連携強化に努めた。

また、家族への情報提供の充実を図るため、育成会の総会や家族との懇談会にさつき寮の事業計画及び利用者負担金やその他障害者総合支援法に関連する情報の提供を積極的に行った。9月には保護者と利用者、職員合同の食事会を開催している。

ケース担当者は保護者、兄弟の方々に毎月生活状況、行事などについての連絡を行っている。

(11) 職員研修

なつどまり内での学習会に積極的に参加し障害者の理解向上に努めるとともに、事業団事務局が主催する法人内研修と県内外の研修等に参加した。

また、なつどまり研究発表会では、さつき寮の研究事例を発表した。

(12) 行事の実施状況

(平成27年)	
4月18日	平内町清掃ボランティア参加
5月3日	花見会外出
5月16日	西平内中学校運動会参加
5月23日	山口小学校運動会
6月30日	なつどまり育成会総会
7月7日	七夕（短冊飾り）
7月20日	なつどまり夏祭り
7月29日	利用者旅行（1泊）北海道
8月4日	青森福祉ねぶた参加
8月8日	夏季一時帰省（～15日）
8月14日	BQ会食（寮内）
8月18日	利用者旅行（1泊）岩手県
9月5日	県スポーツ大会ボーリング競技
9月9日	利用者旅行（1泊）弘前市
9月11日	総合避難訓練

10月 5日	なつどまりみんなデー
10月21日	利用者旅行（1泊）仙台市
11月15日	就労サポートセンター交流会参加
11月 1日	利用者旅行（1泊）東京都
12月12日	シアター上映会
12月18日	さつき寮クリスマス会
12月27日	年末大掃除
12月26日	冬季一時帰省
(平成28年)	
1月 2日	初詣
1月14日	餅つき会
2月 3日	節分集会
2月26日	防災訓練
3月 2日	よごしやま温泉外出
3月 3日	雛祭り会
3月 4日	日中活動班慰労会
3月16日	夜越山洋ランまつり観覧

(13) 工賃支給状況

班活動に従事した利用者全員を対象に「工賃支給要綱」を定め、工賃を支給した。(11月・3月は一時金支給額) (金額単位は円)

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生活介護工賃	108,440	104,810	118,260	94,880	71,720	82,300	95,460	91,770
支給者数	54	53	53	54	64	63	64	63

項目/月	上期一時金	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合計	月平均
生活介護工賃	1,013,640	96,560	94,320	150,160	121,390	980,620	3,224,330	4,460
支給者数		63	64	64	64		723	

#### 第4-Ⅳ 短期入所事業さつき寮

##### 1 概況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行うものです。平成27年度は2件の利用があった。

##### 2 事業の実施状況

氏名	住所地	件数	利用日数
Tさん	平内町	1件	2日
Sさん	平内町	1件	3日

#### 第4-Ⅴ 指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所 障害者総合福祉センターなつどまり「スワンハイム」

##### 1 概況

地域で共同生活を営むための相談や日常生活上の援助や夜間の入浴、排泄、食事の提供等を行った。

平成27年度は、健康上の問題や高齢化も顕著に表面化しており、高齢化に対応すべき地域での支援等について、ハード面での見直しは必須であり、建物の老朽化やバリアフリー化、消防法改正・建築基準法適合に向けた物件の確保が急務であり、協議を継続している。

利用者支援においては、健康管理に努めるとともに、余暇の充実を図り利用者旅行の実施や、他機関との連携のもと余暇支援に努め、あおもりホット音楽祭参加やスポーツ交流参加など活動の場を広げてきた。

##### 2 職員の状況 （平成28年3月31日現在）

男女別	職名			合計
	地域生活支援課長	生活支援員	世話人	
男	1	1		2
女		1	8	9
計	1	2	8	11

##### 3 事業の実施状況

現在は、入居定員30名で共同生活援助利用者27名が利用している。

一般就労利用者は5名、就労継続支援A型事業3名、就労継続支援B型事業16名、生活介護サービスに3名の利用者が通っている。

利用状況一覧

(平成28年3月31日現在)

ホーム名	所在地	定員	利用者
スワンハイム	平内町大字小湊字小湊72-2	6	男子6名
第2スワンハイム	平内町大字小豆沢字茂浦沢129-1	2	女子2名
松野ハイム	平内町大字小豆沢字茂浦沢25-7	4	男子3名
第3スワンハイム	平内町大字小湊字小湊160-2	6	男子3名 女子2名
第5スワンハイム	平内町大字小湊字小湊79-27	6	男子3名 女子2名
第6スワンハイム	平内町大字小湊字愛宕29-25	6	男子6名
合計	6か所	30	27人

第4-VI 相談支援事業所なつどまり

1 概況

障害者及び障害児、保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じ、柔軟な相談支援の実施を目的として、事業開始から今年で3年を経過した。

福祉サービスを必要としている委託先の平内町所管の利用者及び保護者からの相談や依頼を受け、相談件数は200件を超える。

また、障害者支援施設しらかば寮、障害者支援施設さつき寮、就労サポートセンターさつき、障害児入所施設八甲学園等を利用している他市町村所管の方々のアセスメントやサービス等利用計画の作成、モニタリング聴き取りなどでも件数を増やし、現在214件の相談件数、次年度中には220件に達すると見込まれる。

2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

職名 男女別	相談支援専門員	補助員	合計
男	1	0	1
女	0	1	1
合計	1	1	2

3 事業の実施状況

① 利用人数 (※重複あり)

	実人員	身体障害	重心医	知的障害	精神障害	発達障害	その他
障害者	213	44	85	194	15	26	0
障害児	1	1	1	1	0	0	0
合計	214	45	86	195	15	26	0

② 相談方法

	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	関 係 機 関	合 計
件数	7	0	4	13	0	15	39

③ 利用者別相談件数

	しらかば 寮	さつき寮	スワ ン ハイ ム	サポ セン (在 宅)	その 他の 施設 等	合 計
平内町所管	4	7	6	11	41	69
他市町村	66	51	21	0	76	145

④ 作成件数

	計 画	モニタ リング	合 計
件 数	152	192	344



## 第5 青森県長寿社会振興センター

### 1 概況

少子高齢化の進展などから、本県の高齢化率は全国を上回る速さで進んでいるが、その約8割は介護保険を利用しない“元気な高齢者”である。特に、平成21年度から大量に定年退職した、いわゆる団塊の世代を含む元気な高齢者の生きがいと健康づくりの支援は、ますます重要な課題となっている。

平成27年度も引き続き、青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を目標に、高齢者一人ひとりが、心身ともに「すこやか」に「自立」し、住み慣れた地域において、安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現を目指すことを基本理念に、生きがいと健康づくり及び仲間づくりに関する事業の積極的な展開を図った。

### 2 職員の状況

職名 男女別	所長 (理事長兼務)	推進課長	事務員	臨時事務員	計
男	1 (兼務1)	1	1		3
女			2	2	4
計	1 (兼務1)	1	3	2	7 (うち兼務1)

### 3 事業概要

#### (1) 高齢者のスポーツ、健康づくり及び地域活動等を推進する事業

##### ① 全国健康福祉祭派遣事業

高齢者の健康増進及び生きがいの高揚を図るために開催される第28回全国健康福祉祭やまぐち大会に選手を派遣した。

- ・ 会 期 平成27年10月17日(土)～20日(火)
- ・ 開 催 地 山口県(山口市ほか)
- ・ 派遣内容 ◎スポーツ交流大会(10種目)  
◎ふれあいスポーツ交流大会(4種目)  
◎文化交流大会(2種目)  
◎その他(シンポジウム、美術展への出品)
- ・ 派遣人員 約108人(選手103名、役員5名)
- ・ 選考方法 前年度のシニアフェス上位入賞者より選考、当センターで選考

が難しい種目は当該団体に推薦してもらい選手を決定した。

② 第17回あおもりシニアフェスティバル（県健康福祉祭）開催事業

県内高齢者のスポーツ、文化活動等の祭典として、健康増進、社会参加及び世代間交流の促進を図り、みんなが輝いている長寿社会づくりを目的として開催した。

ア) 総合開会式、文化イベント 別添添付資料参照

- ・ 開催日 9月13日(日)
- ・ 会場 県民福祉プラザ
- ・ 内容 総合開会式及び高齢者知事顕彰状贈呈、文化イベント(アトラクション、シルバー作品展示、ユニカル交流、シニアレッジ、シニアリーダーコーナー等)
- ・ 来場者数 約1,000人

イ) スポーツイベント(13種目)

- ・ 開催日 9月27日(日)、10月2日(金)、4日(日)
- ・ 会場 新青森県総合運動公園、青森県総合運動公園、青森市スポーツ会館、青森ヤクルトスイミング、五戸町小渡平公園、東北町南総合運動公園「ふれあいドーム上北」等
- ・ 内容 ラージボール卓球、テニス、ソフトテニス、ゲートボール、ペタンク、弓道、剣道、グラウンド・ゴルフ、なぎなた、水泳、ターゲット・バードゴルフ、バウンドテニス、ウォークラリー
- ・ 参加人数 約1,200人

ウ) 第6回冬季スポーツイベント

- ・ 開催日 カーリングは12月3日(木)  
スキーは平成28年1月30日(土)
- ・ 会場 カーリング：青森市スポーツ会館  
スキー：大鱈温泉スキー場
- ・ 内容 カーリング、アルペンスキー
- ・ 参加人数 カーリングは34名、スキーは33名参加

(2) 高齢者の社会活動を振興するための指導者等養成事業

① 青森シニアカレッジ事業

高齢者に体系的な学習の場を提供することによって、生きがいのある生活基盤の確立と健康の保持・増進に役立てるとともに、地域活動の担い手を養成することを目的とする。

ア) 学校企画運営委員会

- ・ 開催回数 随時
- ・ 委員人数 8名

イ) シニアカレッジ実施

- ・ 開催場所 青森県総合社会教育センター
- ・ 開催回数 18回、1日の時間割  
10:00~10:30 ホームルーム  
10:30~12:00、13:00~14:30 の2時限
- ・ 学習分野 一般教養、健康と生活、地域と歴史文化、クラブ活動等
- ・ 受講生 171名

ウ) カレッジ祭実施

受講生による自主的な活動として、実行委員会を開催し実施した。

◎平成27年11月24日(火)

エ) 公開講演会の実施

青森シニアカレッジ事業の広報活動を含め、一般への公開講座を行った。

◎平成28年3月15日(火)映画「抱擁」無料上映

② 高齢指導者(シニアリーダー)活動推進事業

長年培った豊富な経験、知識、技能を有している高齢者を対象に、活動の場を提供出来るように努めた。

③ 高齢者ラジオ放送講座「あおもり長寿セミナー」事業

高齢者に必要な知識、能力の向上を図り、高齢者の生きがいと健康づくりに寄与することを目的に実施した。

- ・ 放送媒体 RAB青森放送
- ・ 放送回数 年間24回(毎月第1・3土曜日6時30分から30分間)
- ・ 放送内容 テーマは「一般教養、生き方、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり」
- ・ 受講者数 138人
- ・ その他 放送テキストを作成し受講生及び関係者に配布。受講生が主体となって行うスクーリング(7月29~30日、28年3月9日の年2回)を実施した。  
修学旅行は、栃木県・群馬県(2泊3日)

④ 事業評価・推進会議開催事業

効果的事業運営を図るため、事業実施後の評価及び次年度実施に向けた企画の参考意見を聴取する等事業評価・推進会議を開催した。

- ・ 開催時期 平成28年2月25日(木)
- ・ 構成メンバー 13名(事業関係団体担当者、事業参加者等)
- ・ 開催内容 全体会及び専門部会 各1回

### (3) 仲間づくり事業

#### ① 元気なシニア総合サポート事業

仲間づくり支援相談員（センター職員が兼務）を配置して適切な指導・助言を行うほか、健康づくり活動等を行うサークルの情報収集及び提供を行った。

#### ② 機関誌「あすなる倶楽部」の発行

定期的に機関誌を発行し、仲間づくりのための各地域の状況や情報を提供し啓発・普及を図った。なお、作成にあたっては、県内高齢者を中心とした編集委員会を組織し発行した。

・発行回数 年4回（6、9、12、3月）

・発行部数 各2,500部

#### ③ ホームページ及びブログの運営

・内 容 当センターの紹介、事業の紹介、機関誌の紹介等を行った。

・アドレス <http://www.choju-aomori.or.jp>

・ブログの運営

#### ④ 広報活動

当センターの事業内容等について、広く県民にPRするため、パンフレット等を配布した。

### (4) 介護予防事業

市町村から受託し、高齢者が要介護状態もしくは要支援状態となることの予防を目的として行うものである。単に運動機能や栄養状態など、個々の心身の状況等の改善のみを目指すものではなく、個々の高齢者が自立した日常生活を営むことができるよう支援する。

これまでも市町村へ情報発信（介護予防事業パンフレット・介護予防の内容の機関誌・高齢者の生きがい健康づくり事業の効果等周知）し、連携を図ってきたが、継続して情報交換していく。また、講師派遣等を通して介護予防の必要性の普及・啓発を図った。

① 受託先 五所川原市、大鰐町

② 回数 五所川原市32回（五所川原・金木・市浦各8回）

大鰐町63回（大鰐町は介護予防一次予防事業49回、二次予防事業14回）

③ 内容 運動機能向上、栄養改善、口腔ケア、認知症予防、閉じこもり防止、その他学習療法による脳トレ、ニュースポーツや軽スポーツ等の通所型介護予防事業。

また、一般財団法人長寿社会開発センターで全国に啓発・普及している「ふまねっと運動（歩行機能や認知症機能の改善）」を取り入れ事業を実施した。

④ 対象人数 五所川原市140名、大鰐町110名※募集は市町で実施した。

(5) 「あすなろ遊学の旅」事業

当センターが組織化した高齢者自主活動組織「あすなろ友の会」の幹事会事業である「あすなろ遊学の旅」事業を実施した。

① 事業内容 合同忘年会

開催日：平成27年11月19～20日（1泊2日）

場 所：鱒ヶ沢町 ホテルグランメール山海荘

参加者：131名

② そ の 他 あすなろ友の会は、現在約700名の会員がいる。

(6) その他

① 健康運動指導士による介護予防教室の普及（年間16回）

② 青森県消費者協会主催「青森県消費者トラブル防止ネットワーク」委員

③ エイジレス・ライフ実践者賞、青森県「健康づくり事業功労者等表彰」、  
青森県「いきいき男女共同参画社会づくり表彰」推薦

④ ふまねっとサポーターによるふまねっと運動教室職員派遣

⑤ 口腔保健支援センター運営委員

⑥ 生涯学習フェア2015への出展

## 第6 青森県発達障害者支援センター

### 1 概況

当センターは平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の付置施設として開設し10年目を迎えた。平成27年度も、青森県発達障害者支援センター「ステップ」の『繋ぐ・集う・育つ』をモットーに、発達障害のある方が地域で安心して自分らしい生活が送れるように、地域の各関係機関をはじめ、さまざまな方々と連携・協働しながら本人とその家族を支援するとともに、関わる皆さんを応援し地域の支援体制の充実を目指した。

発達障害者支援センター運営事業の4つの柱である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」を軸に、「青森県発達障害者支援体制市町村サポート事業」により、県内市町村の支援環境の整備を支援するとともに、「青森県発達障害者支援体制促進事業」による、地域で発達障害のある方やその家族を支援するリーダーやコーディネーターとなる人材の育成と地域における支援の拠点作りに取り組んだ。

また、発達障害者支援センターの地域支援機能の強化に向けて、職員の専門性とマネジメント力の向上を図り、地域の関係機関等と連携・協働して地域支援の充実を目指す様々な取り組みを実施した。特に、平成25年度に引き続き開催した「自閉症支援実技トレーニングセミナー」では、受講者へ実施したアンケートからも地域の人材育成及びネットワーク構築に成果が確認された。

その他、市町村の健診事業への職員派遣、保育所・関係福祉施設・学校等への訪問支援、機関コンサルテーション、研修講師の派遣の依頼が高まり、積極的に対応した。

発達障害を地域の方々に正しく理解してもらう普及啓発の取り組みとして、「自閉症啓発デー」の開催、「青森県発達障害者支援フォーラム」の共催、当支援センターの発達障害サポートコーチによる「県内6圏域での研修会」等を実施した。

青森県発達障害者支援連絡協議会を年2回開催し、各関係機関等との連携と県内各地域の課題の共有を図った。

### 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

職名 男女別	所長	副所長	主任 支援員	支援員	臨時 支援員	計
男	1				1	2
女		1	1	2		4
計	1	1	1	2	1	6

### 3 事業の実施状況

#### (1) 実施状況の総括

事業内容			実 績
1 発達障害児（者）及びその家族等に対する相談支援・発達支援		実支援人員	537人
		延支援件数	689件
2 発達障害児（者）に対する就労支援		実支援人員	172人
		延支援件数	218件
3 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	a. センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	26回
		延参加人数	1277人
	b. 外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	93回
		延参加人数	2781人
	c. 教育関係者との合同研修会	実施回数	15回
		延参加人数	652人
4 関係施設・関係機関等の連携	a. 連絡協議会開催回数	実施回数	2回
	b. 調整会議	実施回数	12回
	c. 機関コンサルテーション	実施件数	24回
	d. 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	3回
	e. 他の協議会への参加状況	参加回数	37回
5 地域住民等に対する普及啓発	地域住民向け研修会の開催等	実施回数	10回
6 職員の研修派遣状況		参加回数	38回



## 第7 ライフサポートあおば

### 1 概況

ライフサポートあおばは、平成22年4月に青森市青葉地区に事業所を開設した。自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいの方々が地域において安心した生活ができるよう、青森市近郊で生活する発達障がい児者の悩み（相談支援）・育ち（通所支援）・遊び（外出支援）などの幅広いニーズに対応した。実施事業は、以下のとおりである。

- (1) 行動援護事業所あおば（青森市青葉地区）  
行動援護事業…障がい児者の外出サポート
- (2) デイサービスセンターあおば（青森市青葉地区）  
児童発達支援事業…未就学児童への通所療育  
放課後等デイサービス事業…就学児童への通所療育（発達障がい児向け）  
保育所等訪問支援事業…保育所等へ出向いての支援・助言等（個別給付）
- (3) デイサービスセンターすこやか（青森市千刈地区）  
放課後等デイサービス事業…就学児童への通所療育（主に小学・中学生）
- (4) 相談支援事業所あおば（青森市青葉地区）  
指定特定相談支援事業…障がい者の介護給付費・訓練等給付費支給決定援助等  
指定障害児相談支援事業…障がい児の通所給付費支給決定援助等  
障害児等療育支援事業…障がい児（者）や支援者への助言指導（訪問・外来・巡回）
- (5) すこやか生活塾（青森市青葉地区）  
法人自主事業…発達障がい児向けの個別セッション
- (6) チャレンジサポートすこやか（青森市松森地区）  
放課後等デイサービス事業…就学児童への通所療育（主に中学・高校生）  
※ 「チャレンジサポートすこやか」は、平成27年9月1日より事業を開始した。「デイサービスセンターすこやか」との連携により、中学生・高校生の移行が可能になった。



## 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

事業名	定員	所長	総務	管理者	責任者	職員	計
行動援護事業所あおば	—	1	(1) ※1	1	1	—	2
デイサービスセンターあおば	10名			1	1	4 ※2	6
デイサービスセンターすこやか	10名			1	(1) ※3	5	6(1)
相談支援事業所あおば	—			1	—	1 (1) ※4	2(1)
すこやか生活塾	—			—	—	(1) ※5	(1)
チャレンジサポートすこやか	10名			1	(1) ※6	4	5(1)
合計		1	(1)	5	2(2)	14(2)	22(4) ※7

- ※ 1) 所長は総務を兼務。また、各事業の職員計には計上せず、合計にのみ計上した。  
 2) デイサービスセンターあおばの職員4名中1名は非常勤。  
 3) デイサービスセンターすこよかの責任者は管理者が兼務。  
 4) 相談支援事業所あおばの職員2名中1名は行動援護管理者が兼務。  
 5) すこやか生活塾の職員は、相談管理者が兼務。  
 6) チャレンジサポートすこよかの責任者は管理者が兼務。  
 7) ()付けの数字は兼務とし、実数を本務として計上した。所長を含む職員数である。

## 3 重点事項

- (1) 個々の特性に応じた個別支援の充実
- (2) 利用者の地域生活を支えるケアマネジメントの推進
- (3) 発達障がいの理解と支援の普及啓発
- (4) 家庭・行政・教育等の連携による地域支援ネットワークの構築
- (5) 当法人内の施設・機関との連携及び協力体制の推進

## 4 職員研修

- (1) 職員の主体的な目標を踏まえた人材育成計画を作成し、意図的な適宜助言・指導(スーパーバイズ)、研修派遣を行い、自己研修の奨励を行った。
- (2) 各事業において職場内研修や見学・交流研修、ケースカンファレンスを開催した。
- (3) 業務と関連する団体等の研修会等へ派遣した。
- (4) 職員の経験年数に応じ、事業推進に必要な技術・資格等の取得に努めた。

### I 行動援護事業あおば

#### 1 概況

知的障がい等により外出等で援護を必要とする利用者に対し、危険を回避するために必要な援護、移動中の介護、排泄及び食事との介護、その他必要な援助を行った他、各種関係機関との連携やサービス内容の普及啓発に努めた。

職員のサービス提供1回あたりの稼働時間は、平均2時間30分程度であった。

その他に、保護者との連絡調整、事業所と利用者宅間の移動、実施場所の下見、場面に応じた活動支援計画作成等の事前準備に時間を要している。こうした事前の準備を入念に行うことで、事故等のない安全なサービス提供が可能となった。

契約者の内訳では、全体の8割程度が自閉症を有する男児であった。

利用児者の受け入れは稼働可能職員数が、少なく限られていることもあり新規の受け入れは困難な状況であった。また稼働職員が少ないことにより、職員の体調不良等があった場合は、調整も難しくキャンセルせざるを得ない状況も多かった。

## 2 利用状況

### (1) 月別利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
営業日数	19	18	21	22	18	19	21	19	19	19	19	20	234
延べ利用人数	22	21	23	29	20	24	21	26	20	26	28	22	282

### (2) 活動状況

活動	延回数	活動	延回数	活動	延回数
入浴	90	買い物	110	他運動	10
散策散歩等	54	スケート	35	他活動	49
公共施設等	33	プール	49	緊急中止	0
食事	50	水族館	6	キャンセル	20

※ 1回の利用で複数の活動を実施することが多くあるため、利用数と活動数は異なる。銭湯などの活動や排泄の自立度との関係から、同性介助を要する場面が多くあった。

## II 相談支援事業あおば

### 1 概況

障害児等療育支援事業（青森県・青森市）、基本相談の他、計画相談（指定特定相談・障害児相談・一般相談）にてサービス等利用計画の作成を実施した。

### 2 利用状況

サービス等利用計画・障害児支援利用計画	契約件数	サービス等利用計画	モニタリング
(1) 指定特定相談支援事業	188件	116件	186件
(2) 指定障害児相談支援事業	114件	123件	100件
障害児等療育支援事業	延べ実績	内訳	
		青森県	青森市
(1) 訪問による療育指導	33件	0件	33件
(2) 外来による専門的な療育相談・指導	65件	0件	65件
(3) 療育技術の指導	62件	0件	62件

### Ⅲ 児童デイサービスあおば

#### 1 概況

デイサービスセンターあおばでは、未就学児を対象とした児童発達支援事業と、学齢期の発達障がい児（主に知的障がいを伴わない方）を対象とした放課後等デイサービス事業を実施し、平成 25 年度から保育所等訪問支援事業を実施した。

療育及び発達の支援を必要とする児童（主に発達障がい児）を対象に、本人と家族の希望により本人の特性と発達段階に沿った個別支援計画を作成し、日常生活において自立的に行動できる力を身につけるための支援を行った。

児童発達支援事業では、個別活動・集団活動を通して早期療育の指導を行った。集団活動では毎日の朝の会・昼食・おやつ活動の他、毎月制作活動、おやつ作り、音楽活動、外出活動、ゲーム活動の行事活動を実施している。また、季節ごとの行事活動として、徒歩遠足 2 回、外食 3 回、プール活動 8 回、雪遊び 6 回、園芸 7 回、避難訓練 2 回、卒園式等の活動を取り入れ支援活動の充実を図った。利用児童の保護者見学は 16 回実施した。個々のアセスメントを丁寧に行い、それぞれのお子さんの発達課題に合わせたコミュニケーション指導、社会性の指導では、地域交流を含め社会資源の活用も積極的に行った。

放課後等デイサービスでは、1 対 1 の個別セッションでコミュニケーション・感情のコントロール・ソーシャルスキルの習得・自己認知・性教育等の内容で支援を行った。障がい告知を通じた自己認知支援により自己理解・他者理解が深まりさまざまな効果が見られている一方で、社会的場面における個々の課題が顕著になってきている。長期休みには、3~6 人の児童でのグループセッションも年に 6 回実施し、自閉症についての学び、感情についての学びを行った。

また、個別支援計画の作成や実施に関連した保護者との面談や家庭訪問を実施し、家庭との連携強化に努めたほか、他療育機関及び関係機関への訪問・連携会議等への参加を通して、地域移行に関する支援も行い、関係機関等との連携の強化に努めた。保護者面談の IEP ミーティングは児童発達支援では年 3 回、放課後等デイでは年 2 回実施している。そのほか、保護者のニーズに合わせて随時面談を実施した。

保育所等訪問支援事業では、お子さんが保育園・幼稚園及び小学校等の集団生活に適応することができるように訪問支援を行い、お子さんに関する共通理解をもとに協働・連携を行った。

その他、利用希望の見学者や体験希望、ボランティアの受け入れをした。

## 2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
児童発達支援契約者数	7	7	7	7	7	7	7	7	8	9	9	9	
営業日数	17	20	21	21	18	20	21	19	18	18	20	22	235
延べ利用人数	119	122	143	121	120	127	136	117	101	108	127	119	1,460
放課後等デイサービス契約者数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
営業日数	19	20	21	16	18	20	21	15	18	18	20	22	228
延べ利用人数	22	32	42	28	37	32	32	25	28	35	35	26	374
保育所等訪問支援契約者数	12	12	12	12	12	12	12	13	14	14	14	15	
延べ利用人数	5	2	2	1	1	0	1	4	7	2	5	9	39
延べ利用人数合計	146	156	187	150	158	159	169	146	136	145	167	154	1,873

## IV 児童デイサービス事業すこやか

### 1 概況

デイサービスセンターすこやかは、平成 21 年 4 月青森市千刈地区に開設され、青森市内に住む知的障がい、発達障がいを有する小学・中学生に対し、生活に必要なスキルを習得するための支援を実践した。

平成 27 年 9 月に開始したチャレンジサポートすこやかへの移行、開設のための準備、新任者の研修、開設後の応援・交流を通じて、職員への研修強化と事業所の体制強化を行った。

契約者の内訳は(平成 28 年 3 月現在)、総契約者 27 名中、小学生が 20 名 (74.1%)、中学生が 7 名 (25.9%)、青森第二養護学校在籍児が 20 名 (74.1%)、その他・特別支援学級在籍児が 7 名 (25.9%) であった。

本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談の他に、家庭・学校との連携を行った。

実習生の受入は 3 団体 8 名、ボランティアの受入は 1 名、見学受入は 35 名、講師・講演活動・学習会等へのインストラクター派遣を延べ 31 回実施・参加し、支援技術やサービス内容の普及啓発に努めた。また、週 1 回 (雨天中止)、地域のゴミ拾い等を実施した。

職場内においては毎月の職場内研修、職員の自己啓発 (SD) を中心とした職員研修の他、他事業所の見学・実地研修や研修会への参加も行った。

## 2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	26	26	27	28	28	24	26	28	25	25	26	27	
営業日数	20	20	21	22	21	20	22	18	19	19	19	22	243
登校日利用	178	205	228	149	112	158	212	194	153	119	192	158	2,058
学休日利用	47		11	95	106	10	8	9	35	62	3	62	448
延べ利用人数	225	205	239	244	218	168	220	203	188	181	195	220	2,506

## V 生活塾事業（セッション部分）

### 1 概況

あおばでは、法人自主事業として、福祉サービスの利用が困難な高機能群の発達障がい児に対してのセッションを担当している。

セッション自体に対してのニーズが多いことは、発達障害者支援センターステップに寄せられる相談件数で明白であるが、他の事業と兼務していることもあり、要望に応えられない面もあったため、利用実績はなかった。

### 2 利用状況

要望に対応できる職員配置が難しいため、平成27年度はセッションを休止している。

## VI チャレンジサポートすこやか

### 1 概況

チャレンジサポートすこやかは、平成27年9月青森市松森地区に開設され、青森市内に住む知的障がい、発達障がいを有する中学・高校生に対し、生活に必要なスキルを習得するための支援を実践した。

開設にあたり、デイサービスセンターすこやかでの新任者研修、開設後の交流研修を通じて、職員への研修強化と事業所の体制強化を行った。

契約者の内訳は(平成28年3月現在)、総契約者21名中、中学生が10名(47.6%)、高校生が11名(52.4%)、青森第二養護学校在籍児が20名(95.2%)、青森第一高等養護学校在籍児が1名(4.8%)であった。※うち不登校児が1名。

本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談の他に、家庭・学校との連携を行った。

実習生の受入は2団体7名、見学受入は21回実施し、サービス内容の普及啓発に努めた。

職場内におけるケースカンファレンスやスーパービジョン体制の活用、職員の自己啓発(SD)を中心とした職員研修の他、他事業所の見学・実地研修や研修会への参加も行った。

## 2 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数						15	15	16	19	20	21	21	
営業日数						20	22	18	19	19	19	22	139
登校日利用						106	124	113	131	121	182	150	927
学休日利用						7	4	4	32	48	7	52	154
延べ利用人数						113	128	117	163	169	189	202	1,081

## 第8 あおもり出会いサポートセンター

### 1 概況

急速に進行する少子化対策の一環として、結婚を希望する方の出会いと結婚を支援する事を目的に、青森県こどもみらい課の事業委託を受け、平成23年7月1日「あおもり出会いサポートセンター」を開所した。

平成27年度はコーディネーターによる出会いの場の情報提供のほか、個人会員を対象に出会いの場を提供する事を目的とした「会員交流会」を当センター主催で開催した。

県内の市町村や協賛団体等との連携を深めるため、また、地域ごとの抱えた課題や取り組みなどの情報交換を目的とした連絡協議会を東青、中南・西北（合同）、三八、上北・下北（合同）の6地域で開催した。

### 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

職名 男女別	所長	事務員	計
男	( 1 )	1	2
女		1	1
計	( 1 )	2	3

※所長は理事長兼務

### 3 事業の実施状況

#### (1) 会員登録状況

センターではそれぞれ趣旨・目的の異なる登録があり、個人会員、団体会員、協賛団体の3種の登録制度を設け、会員登録の確保に努めた。

#### ア 個人会員

青森県在住の満20歳以上の独身の方で、出会いのきっかけを求めているご本人のための会員制度であり、ご登録いただいた会員には、定期的にメールマガジンまたは郵送で県内の交流パーティ・イベント情報を提供した。

(平成28年3月31日現在)

圏域	圏域別合計
東青地域	635
中南地域	339
三八地域	265
西北地域	117
上北地域	129
下北地域	40
合計	1,525



## イ 団体会員

当センターの趣旨に賛同し、独身男女の出会いの機会づくりを積極的に応援していただける企業・団体の会員制度であり、企業や団体内に担当者を置いていただき、その方を介して企業・団体内の独身職員を対象に、定期的に配信される婚活情報を提供した。

(平成28年3月31日現在)

業種	圏域							業種別合計
	東青	中南	三八	西北	上北	下北		
農林水産業	4	2			1		7	
建設・製造	9						9	
情報通信、運輸・郵便、 電気・ガス	3	1					4	
卸売・小売	1						1	
金融・保険	3						3	
宿泊・飲食サービス	2						2	
生活関連サービス、娯 楽							0	
教育・学習	2						2	
医療・福祉	9		1		2	1	13	
その他のサービス	1						1	
公務	2	1	1	3	1	1	9	
その他			1		1		2	
圏域別合計	36	4	3	3	5	2	53	

## ウ 協賛団体

独身男女を対象とした交流パーティ・イベント等、出会いの機会を企画・開催している団体であり、パーティ・イベント等を開催する際に、当センターに情報提供をしていただき、個人・団体会員へ定期的にイベント情報を提供した。

(平成28年3月31日現在)

業種	圏域							業種別合計
	東青	中南	三八	西北	上北	下北		
農林水産業	2	6	2		3		13	
建設・製造	2						2	
情報通信、運輸・郵便、 電気・ガス	5			1			6	
卸売・小売	1						1	



金融・保険	7	1	2		2		1 2
宿泊・飲食サービス	7		1				8
生活関連サービス、娯楽	3			1	1	1	6
教育・学習	3		2				5
医療・福祉	6				1	1	8
その他のサービス	1 0	3	6	3	1	2	2 5
公務	2	2	3	2	3		1 2
その他	4	4	5	1	4		1 8
圏域別合計	5 2	1 6	2 1	8	1 5	4	1 1 6

#### エ 出合いサポーター

現在52名いるサポーターに向けて「サポーターコーディネーターレポート」を9月の年1回発刊し、送付している。

#### (2) ホームページ管理・運営

サポートセンター事業内容の紹介、登録会員（個人・団体・協賛）の募集、センターまたは協賛団体主催イベント開催の情報提供等、最新の情報が容易に閲覧・検索できるホームページを維持・管理した。

また、定期的に情報内容の点検、更新等を行い、会員の方々へ県内の婚活情報をメールマガジンという形で配信し、リアルタイムな情報提供に努めた。

その他、登録会員へ成婚報告依頼等を行い、成婚者の把握に努めた。

◎配信回数 年間24回（月2回定期配信）

◎配 信 数 151件

◎配信内容 センターからのお知らせ、協賛団体主催のパーティ・イベント開催 情報等

※27年度の成婚者数33人、そのうち当センター個人会員同士の成婚1組。

（昨年度の成婚者数は48人、うち会員同士の7組）

#### (3) 個人会員限定交流会（個人会員限定交流パーティ）

結婚を希望して当センターに登録している「個人会員」に対し、地域の中で会員同士が交流を持つ出合いの場を創出・提供し、県内の結婚を希望する独身者の出合いを支援するという目的をより一層達成するために、各地域で出合いイベントを開催している「協賛団体」と連携し、個人会員限定交流会を開催した。

◎名 称 個人会員限定交流パーティ

◎期 間 平成27年6月～平成28年3月

◎開催地域 青森市・弘前市・八戸市・五所川原市

◎実施回数 全 10 回（青森市 6 回、弘前市 2 回、八戸市 1 回、五所川原市 1 回）

◎参加人数 195 名（男性 109 名、女性 86 名）

#### （４）連絡協議会（情報交換会）

業務委託により県内 6 地域（東青・中南・西北・三八・上北・下北）計 4 回（※中南・西北、上北・下北は合同）連絡協議会を開催した。各県民局、市町村、農業団体、商工団体、漁協、自衛隊、当センター協賛団体等が参加し、地域や職域を超えた広域的な結婚支援事業を推進するため、少子化問題や地域活性化に関わる行政機関のほか、結婚支援活動に取り組んでいる民間企業・団体等が情報交換を行った。（名称は「情報交換会」として実施）

##### ◇平成 27 年度結婚支援に関する情報交換会（三八地域）

◎日 時 平成 27 年 9 月 18 日（金）14:00～15:30

◎場 所 パークホテル八戸 2 階「メイプルホール」

◎参 加 18 団体 24 名（当センター関係者は除く 以下同じ）

◎内 容

- ・平成 23 年 7 月開設時から現在までのセンターの活動状況について
- ・当センターの協賛団体による実施状況の説明と課題についての検討
- ・その他結婚支援に関する意見交換等
- ・質疑応答

##### ◇平成 27 年度結婚支援に関する情報交換会（上北・下北地域）

◎日 時 平成 27 年 11 月 20 日（金）14:00～15:30

◎場 所 七戸中央公民館 2 階「第 1 研修室」

◎参 加 16 団体 18 名

◎内 容

- ・平成 23 年 7 月開設時から現在までのセンターの活動状況について
- ・当センターの協賛団体による実施状況の説明と課題についての検討
- ・その他結婚支援に関する意見交換等
- ・質疑応答

##### ◇平成 27 年度結婚支援に関する情報交換会（中南・西北地域）

◎日 時 平成 27 年 12 月 9 日（水）14:00～15:30

◎場 所 弘前市総合学習センター 4 階「第 4 研修室」

◎参 加 16 団体 21 名

◎内 容

- ・平成 23 年 7 月開設時から現在までのセンターの活動状況について

- ・センターの協賛団体による実施状況の説明と課題についての検討
- ・その他結婚支援に関する意見交換等
- ・質疑応答

※県こどもみらい課から1名参加。人口減少対策や少子化対策について、県による取組みの説明を行った

◇平成27年度結婚支援に関する情報交換会（東青地域）

◎日 時 平成28年2月10日（水）13:30～15:00

◎場 所 弘前市総合学習センター 4階「中研修室」

◎参 加 23団体 26名

◎内 容

- ・平成23年7月開設時から現在までのセンターの活動状況について
- ・センターの協賛団体による実施状況の説明と課題についての検討
- ・その他結婚支援に関する意見交換等
- ・質疑応答

※県こどもみらい課から1名参加。人口減少対策や少子化対策について、県による取組みの説明を行った

## 第9 就労サポートセンターさつき

### 1 概 況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援事業A型及びB型を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や一般就労に必要なスキルを身に付けるための支援を行った。

併せて、地域貢献の一環として、近隣住民との積極的な交流活動をはじめ、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れるなど地域と一体となり事業展開した。

生産活動は、農産班、清掃班、請負班、リサイクル班の計4班体制とし、農産班の水稲事業では、「まっしぐら」を主に栽培、32,510kg(約542俵)を収穫して完売した。また、請負班では、ほたて籠つなぎ作業や漁業資材用ロープ加工、アゲピン刺し及びほたてラーバ採取用ネット切断作業など漁業関係の請負業務を中心に受託したところである。

### 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

区分	所長	副主任 支援員	支援員	臨時 支援員	臨時 事務員	臨時 調理員	非常勤 労務員	非常勤 調理員	合計
男	1	1	2	3			2		9
女				3	1	1		1	6
計	1	1	2	6	1	1	2	1	15

### 3 利用者の状況

(平成28年3月31日現在)

区分	就労移行 支援事業	就労継続支援 B型事業	就労継続支援 A型事業	合計
定員	9	21	10	40
利用者数	8	26	5	39
男性	7	21	5	33
女性	1	5	0	6

平均年齢＝全体：38歳（男性：39歳、女性：37歳）

### 4 運営方針

就労継続支援事業A型を立ち上げたことで、就労系の事業（就労移行、就労継続支援事業A型及びB型）が揃い、就労支援に特化した事業所として特色ある事業を展開していく。

なお、当事業所の利用を希望する方々の受け入れにあたっては、可能な限りの配慮を心掛けるほか、当事業所の特色としてスポーツ（運動、観戦、食育）を前面に押し出し、利用者の活躍の場を提供するなどして特別支援学校からの新規利用者獲得を図っていく。

また、平内町から受託している「放課後こども教室事業」においては、障害者の事業所で受託する利点を生かし、他にない特色のある教室として運営に努めていく。

地域交流は、引き続き積極的に取り組むこととし、地域と一体化した事業展開を図る。

## 5 重点事項

- (1) スポーツ大会等への積極的参加及び観戦
- (2) 各種スポーツ指導員の養成（職員）
- (3) 運動や就労に適した体作りができる食事メニューの開発
- (4) 地域貢献活動（海岸清掃及び除雪ボランティア等）の実施
- (5) 地域交流に向けた交流イベントの実施
- (6) 放課後こども教室の効果的運営
- (7) 工賃向上に向けた積極的な取組
- (8) 余暇活動支援の実施

## 6 事業の実施状況

### (1) 事業概要

#### ①就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。就職決定者に対しての定着支援は当事業所のジョブコーチが対応した。

#### ②就労継続支援事業A型

一般企業等での就労が困難な方に、雇用して就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

#### ③就労継続支援事業B型

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

### (2) 生産活動の売上状況

班 名	平成27年度(A)	平成26年度(B)	差異(A-B)
農 産 班	12,442,983	6,782,403	5,660,580
清 掃 班	2,696,400	2,696,400	0

班名	平成27年度(A)	平成26年度(B)	差異(A-B)
請負班	8,831,755	7,252,154	1,579,601
リサイクル班	6,396,454	8,155,999	▲1,759,545
計	30,367,592	24,886,956	5,480,636

(3) 工賃及び賃金の支給状況

区分	就労移行支援事業		就労継続支援事業B型		就労継続支援事業A型	
	延べ人数	支給金額	延べ人数	支給金額	延べ人数	支給金額
年間合計	129	1,677,280	305	4,380,400	60	4,407,666
1人当たり 月平均額		13,002		17,671		73,461

(4) 就労に向けた取組

職場見学や実習を通じて、一般就労に向けて積極的に取組んだ結果、3名が一般企業に採用された。採用後は、ジョブコーチが就労定着に関わった。

①職場見学

期日	人数	見学先
9月14日	2	マックスバリュ平内店
10月20日	2	平内いきいき健康館「よごしやま温泉」
11月20日	5	安生園（厨房業務）、青森敬仁会病院、ユニバー ス東青森店、株式会社大成堂製菓工場

②職場実習

期間	人数	実習場所
6月22日～30日（7日間）	1	株式会社ヤマト運輸青森主管支店 青森東支店
6月22日～30日（7日間）	1	株式会社大成堂製菓工場
9月14日～30日（10日間）	2	株式会社マックスバリュ平内店
10月19日～30日（10日間）	2	株式会社マックスバリュ平内店
10月26日～30日（5日間）	2	平内いきいき健康館「よごしやま温泉」
2月29日～3月4日（5日間）	3	平内町立山村開発センター、平内町勤労青少年ホ ーム

(5) 余暇支援等（行事関係）

	レクリエーション（土日開所）	地域交流活動等
4月	◎夏泊半島海岸清掃&事業所説明会 （18日）	◎塩竈神社春祭り（17日） ◎もうらだいすき海岸運営協議会（24日）
5月	◎夜越山クロスカントリー大会（3日） ◎下北方面旅行（16日） ◎茂浦地区清掃ボランティア（23日） ◎走れメロスマラソン（31日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
6月		◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎地域住民との意見交換会（27日）
7月	◎奥津軽駅見学（18日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放（26日）
8月	◎竜飛・義経マラソン（9日） ◎大運動会（22日） ◎県障害者スポーツ大会（30日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
9月	◎AWボウリング大会（6日） ◎利用者一泊旅行（10～11日） ◎避難訓練&地引網体験（12日） ◎あおもりホット音楽祭（26日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
10月	◎メイプルマラソン大会（31日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
11月	◎大収穫祭（7日） ◎六ヶ所方面旅行（28日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
12月	◎忘年会（12日） ◎クリスマス会（20日）	
1月	◎AWボウリング大会（16日） ◎避難訓練&温泉（23日）	◎茂浦青年団権現舞訪問（18日）
2月	◎温泉（27日）	
3月	◎歓送迎会（26日）	

(6) 食事（昼食）提供

昼食を希望する方には、当事業所職員が調理する食事を提供した。また、必要に応じ特別食（カロリー摂取制限）を提供した。

なお、提供メニューは、毎月開催する給食会議において利用者から直接意見を伺いメニューの作成を行った。

(7) 送迎体制

送迎車両4台の体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
平内町内	小湊、小豆沢 方面
狩場沢	なつどまり、狩場沢、清水川 方面
青森市山通り	桜川、観光通り、八甲学園 方面
青森市浜通り	青森駅、浪打、八重田 方面

(8) 実習生の受入

受入期間	人数	学 校 名
6月15日～6月26日(10日間)	1	青森県立青森第二養護学校
6月22日～6月26日(5日間)	1	青森県立七戸養護学校
6月29日～7月10日(10日間)	2	青森県立青森第二養護学校
6月29日～7月10日(10日間)	1	青森県立青森第一高等養護学校
9月7日～9月18日(10日間)	1	青森県立青森第二養護学校
10月5日～10月9日(5日間)	1	青森県立青森第一高等養護学校
10月5日～10月16日(10日間)	2	青森県立青森第一高等養護学校
10月26日～10月30日(5日間)	2	青森県立青森第二養護学校
11月30日～12月10日(10日間)	1	青森県立七戸養護学校

(9) 苦情解決事業

毎月1回、第三者委員(4名)による相談日を定めたほか、随時相談を受ける体制を整備した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(10) 保健衛生

毎日、利用者が帰宅後、次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を実施した。



(11) 地域交流

- ①平内町主催の「ほたて海道トンネルマラソン」開催にあたり、開会式会場及び休憩所として施設を開放した。
- ②平内町が主催する「県道なつどまり線清掃奉仕作業」に利用者及び職員が参加した。
- ③「大運動会」及び「大収穫祭」に、特別支援学校生徒及び保護者を招待して当事業所の理解を図るとともに、地域住民にも参加を呼びかけ交流を図った。

(12) 所内会議等

会議名	回数
就労・生産支援会議	毎月1回
給食会議	同上
事業所会議	同上

(13) 職員研修関係

事業所内での勉強会や事務局主催の研修を始め、県内外の各種研修等に職員を派遣した。

(14) 広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して利用を呼び掛けた。

## 第10 特別養護老人ホームすこやか苑

### 1 概況

特別養護老人ホームすこやか苑は、平成26年12月の年度途中に開設したこともあり、平成27年度において、初めて一年を通して事業を実施した。そのため、事業計画に基づき実施できたことや計画の修正を伴ったことがあり、平成27年度は今後の施設運営の基盤を作る一年となった。

重点事項として掲げた「(1) 利用者の人権・尊厳擁護の強化」については、高齢者虐待防止に係る研修会のほか、身体拘束廃止に向けた委員会を毎月開催することができた。「(2) 安全確保と保健衛生の向上」については、インシデント・アクシデント報告書の提出の定着化、事故防止委員会を毎月開催することで一定の効果が見られた。「(3) 生きがい活動の支援」として、音楽体操クラブの継続開催のほか、外部より歌や踊りの演者を招くことができた。「(4) 身体機能の維持」に関して、機能訓練指導員による機能訓練のほか、看護・介護職員による健康管理を実施した。「(5) 家族との連携強化」については、家族連絡会を開催し、施設運営の現状報告ほか、次年度の運営推進委員と苦情解決協議会委員の家族代表を選出することができた。「(6) 地域交流の促進」については、近隣の青森県立保健大学の学生ほか、地域の高校生等の体験ボランティア、また、運営推進会議・苦情解決協議会の継続開催をすることができた。

介護職員の求人では困難を極め、事業開始までに必要数を確保できなかったことから、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護は開設後しばらく開始を見合わせていたが、平成27年3月より空床型でサービスを開始し、その後平成27年度より本格運営となった。開始当初は利用者数名であったものの徐々に利用者が増し、8月頃からは概ね7～8割の利用率を維持できている。地域の居宅介護支援事業者等と連携し、急な介護者の不在時や介護者の負担軽減、利用者の生活の安定に一助となっている。

その他、平成27年12月に開設後2度目となる老人福祉法に基づく指導監査や、初めて実施された介護保険法による実地指導が行われ、施設運営に関する助言・指導を受け、概ね良好に運営されていると評価された。今後も施設の基本理念である「家庭に近い環境の中で入居者一人ひとりの尊厳が守られ、心穏やかに自分らしく生活できるように支援します」に基づいた事業の継続が望まれる。

## 2 職員の状況

(平成28年3月31日現在)

職名	施設長	施設統括管理監	医師	生活相談員	看護職員	介護職員
人数	1	(1)	1	1	2	18 (20)
職名	介護支援専門員	栄養士	機能訓練指導員	事務員	専任当直員	計
人数	1	1	1	1	3	30 (33)

※管理者・介護支援専門員は介護職員兼務。施設統括管理監は養護老人ホーム安生園兼務。職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。

※（ ）は兼務職員を含む。

## 3 入退所状況

入所		短期入所・介護予防短期入所	
定員	29人	定員	10人
平成27年度内延入所者数	36人	平成27年度内延利用者数	46人
平成27年度内退所者数	7人	平成27年度内苑利用件数	277件
平成27年度末現在の入所者数	29人		

## 4 運営方針

平成26年12月1日にユニット型地域密着型特別養護老人ホームすこやか苑として開設以来、「家庭に近い環境の中で入居者一人ひとりの尊厳が守られ、心穏やかに自分らしく生活できるよう支援します」を基本理念に掲げ、基本方針を

- (1) 入居者一人ひとりの尊厳を尊重します。
- (2) 家族とのきずなを大切にします。
- (3) 地域とのつながりを大切にします。
- (4) 地域の高齢者福祉の拠点を目指します。

と、定めた。

従って、基本理念、基本方針の実現のため、サービスの提供にあたり、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、可能なかぎり居宅における生活への復帰を念頭に置いてサービスを提供することにより、利用者がその能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮する。

地域や家庭との結びつきを重視し、青森市、居宅介護支援事業者及び他の居宅サ

ービス事業者並びにその他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

さらに、介護予防短期入所生活介護における要支援者に対しては、要介護状態への移行軽減や未然防止のために介護予防を目的として日常生活上の支援に努めるものである。

## 5 重点事項

- (1) 利用者の人権・尊厳擁護の強化
- (2) 安全確保と保健衛生の向上
- (3) 生きがい活動の支援
- (4) 身体機能の維持
- (5) 家族との連携強化
- (6) 地域交流の促進

## 6 事業概要

### I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

#### (1) 定員

29人 10人（個室）×2ユニット、9人（個室）×1ユニット

#### (2) 概要

利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、常に介護が必要な方を受け入れ、入浴や食事などの日常生活上の支援や、機能訓練、療養上の世話などを提供する。明るく家庭的な雰囲気を作り、地域や家族との結びつきを重視した運営を行う。利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮し、各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるよう支援する。

#### (3) 支援目標

ア 常に利用者の心身の状況を的確に把握し、相談援助、日常生活上の世話、機能訓練、年間行事・レクリエーション、その他必要なサービスを入所者の希望に沿って適切に提供する。

イ 懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行う。

ウ 介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う。

エ 利用者や他の利用者の生命や身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わない。

オ 衛生管理、感染症の発生予防に細心の注意を払う。利用者の心身の状況に応じて、週2回以上入浴又は清拭を行う。また、排泄、離床、着替え、整容等に関し、必要かつ適切な介護を行う。

カ 栄養、利用者の身体状況・嗜好、提供時間、自立支援等に配慮して食事を提供する。

キ 退所に当たっては、居宅介護支援事業者や他の保健医療福祉サービス提供者と連携し、必要な援助を行う。

## Ⅱ 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

### (1) 定員

10人 10人(個室)×1ユニット

※上記他、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

### (2) 概要

居宅の要介護者等に一時的に施設利用していただき、居宅での暮らしに近い日常生活を行う観点から、利用者の自律的生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中での生活できるスペースを備えたユニットケアを行い、高齢者の自立支援という視点に立って、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。

### (3) 支援目標

ア 常に利用者の心身の状況を的確に把握し、相談援助、日常生活上の世話、機能訓練その他必要なサービスを利用者の希望に沿って適切に提供する。

イ 懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行う。

ウ 介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う。

エ 利用者や他の利用者の生命や身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わない。

オ 衛生管理、感染症の発生予防に細心の注意を払う。

カ 利用者の心身の状況に応じて、週2回以上入浴又は清拭を行う。また、排泄、離床、着替え、整容等に関し、必要かつ適切な介護を行う。

キ 栄養、利用者の身体状況・嗜好、提供時間、自立支援等に配慮して食事を提供する。

ク 利用者の心身の状態、家族等の事情等からみて送迎を行うことが必要と認められる利用者に対して、その居宅と事業所との間の送迎を行う。

## 7 事業の実施状況

### (1) 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣した他、苑内で次の研修会を実施した。

名称	実施時期等	参加者数	備考
感染症対策委員会 結核の基礎知識	7/2	10人	結核の基礎知識について、感染症対策委員会にて配布した資料

			を確認
事故防止に係る研修会	7 / 27	9人	事故防止に係る研修会として服薬管理マニュアルの確認
救急処置 (AED) 研修	10 / 28	15人	心配蘇生、AEDの使用手順を見学後、グループに分かれて実技演習、質疑応答
感染症対策委員会 ノロウイルス感染症について	11 / 4	9人	ノロウイルスの基本知識、嘔吐物の処理方法動画視聴、嘔吐物の処理方法実技演習、質疑応答
合同研究発表会	12 / 2	12人	養護老人ホーム安生園と合同による研究発表会を実施 Aさんの生活支援の一考察～よい環境、よい対応やケアによって予防はできる～として、研究発表を視聴 特別養護老人ホーム入居者の機能の経時変化と機能訓練介入の効果についての研究発表を視聴
高齢者虐待防止に関する研修会	1 / 6	10人	高齢者虐待防止法における高齢者虐待の定義についての確認、グループワークとして5つの虐待の具体例の話し合い
事故防止に関する研修会	2 / 3	5人	施設内の外線に関する確認、緊急時の報告・緊急搬送以来の手順を確認、緊急搬送依頼の練習(観察ポイントの確認)、青森市への事故発生時の報告について確認
高齢者虐待防止に関する研修会	3 / 2	7人	高齢者虐待について(川崎市有料老人ホーム入所者転落死亡事件から)、虐待に至った要因や防止についての話し合い
業務引継書の書き方	3 / 2	7人	業務引継書の様式、記載方法、留意点を確認

(2) 年間行事

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
敬老会	9 / 16	全利用者	日本舞踊「喜楽会」による創作舞踊等を披露



芸能公演会	10/7	25人	ボランティアサークル「希望の会」よりマジック・踊り・歌謡曲等を各階にて2回披露
ソプラノリサイタル	11/11	25人	ソプラノ歌手竹村佳子氏による童謡や歌謡曲の披露
クリスマス会	12/24	30人	ユニット共同にて各階で開催 歌、ゲーム、出し物など実施
節分会	2/3	17人	おうりん・ふじユニット共同で開催 豆まきや季節にちなんだおやつ の提供
ひなまつり	3/2	7人	おうりんユニットで開催 季節にちなんだオヤツの提供
家族連絡会	3/12	22人	利用者家族16名 施設長・施設統括管理監・生活 相談員・ユニットリーダー6名 運営状況・アンケート結果報告、 平成28年度運営推進委員・苦 情解決協議会委員（家族代表） の選出、意見交換等
その他：おやつ作り、七夕会、運動会、誕生会などを各ユニットで開催			

### (3) 定例会議等

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
ユニット会議	月1回	各ユニッ ト職員	各ユニットで日程調整の上開催 ユニット単位での情報共有と課 題等について協議
ユニットリーダー会議	月1回	ユニッ トリー ダー 他	4/10、5/15、6/19、7/10、8/14 9/11、10/9、11/6、12/4、1/8 2/5、3/22 開催 各ユニットの状況及び課題など の情報共有と課題等についての 協議
全体会議	月1回	各回 約15人	4/17、5/25、6/23、7/23、8/24 9/24、10/20、11/25、12/22 1/20、2/17、3/23 開催 施設運営全般に係る指示事項や 情報共有、課題についての協議
給食会議	月1回	各回	4/17、5/25、6/23、7/23、8/24

		約 8 人	9/24、10/21、11/25、12/22 1/20、2/17、3/23 開催 給食業務及び献立内容についての 意見交換等
事故防止委員会	月 1 回	各回 約 10 人	4/24、5/29、6/17、7/27、8/18 9/15、10/14、11/25、12/9 1/13、2/10、3/9 開催 月ごとの事故分析・対策検討
身体拘束廃止委員会	月 1 回	各回 約 10 人	4/24、5/29、6/17、7/27、8/18 9/15、10/14、11/18、11/25 12/9、1/13、2/10、3/9 開催 身体拘束廃止へ向けた検討
褥瘡対策委員会	月 1 回	各回 約 10 人	4/24、5/29、6/23、7/27、8/18 9/15、10/14、11/18、12/9 1/13、2/10、3/9 開催 褥瘡予防改善に向けた検討
運営推進会議	概ね 2 ヶ月毎	各回 7 人	5/27、7/22、9/9、11/18、1/25 3/16 開催 運営推進委員 4 人 施設長・施設統括管理監・生活 相談員 3 人 施設運営の現状報告、課題等へ 対する助言等
感染症対策委員会	概ね 3 ヶ月毎	各回 約 10 人	7/2、10/14、11/18、3/9 開催 食中毒・インフルエンザ・ノロ ウイルス対策について協議
苦情解決 第三者委員相談日	月 1 回	延 12 人	4/24、5/29、6/26、7/24、8/28 9/18、10/23、11/26、12/11 1/22、2/26、3/18 開催 第三者委員が輪番制で訪問し、 苦情要望の聞き取り
苦情解決協議会	3 ヶ月毎	各回 6 人	6/24、9/28、12/14、3/23 開催 第三者委員 3 人 施設長・施設統括管理監・生活 相談員 3 人 各種苦情解決へ向けての協議
広報委員会	年 3 回 (5・9・	各回 約 5 人	5/29、6/17、9/15、10/6、1/13 2/10 開催



	1月)		広報発行に係る編集等
入所判定委員会	随時	各回 約8人	4/10、4/17、5/1、5/11、5/15、 8/7、8/14、10/23、11/27 12/15、12/24 開催 入所候補者決定に係る協議等

(4) クラブ活動

名 称	実施時期等	参加者数	備 考
音楽体操クラブ	月1回程度	各回 約20人	4/1、5/20、6/3、7/29、8/19 9/30、12/9、2/24、3/30 開催 ふじ・ほくとユニットにて、各 階ごとに実施

(5) 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考
バイタルチェック	毎日	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状 態の観察等
体重測定	毎月	全利用者	身長測定は年1回実施 ※短期入所利用者は除く
配置医診察	週1回 木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査 や通院等の指示等
通院・往診	随時	通院が 必要な 利用者	泌尿器科61人・内科31人 外科12人・整形外科11人 認知症外来10人 救命救急10人・神経内科9人 総合診療科9人・耳鼻科8人 皮膚科4人・緩和ケア2人 眼科1人 認知症外来(往診)20人 歯科(往診)15人 緩和ケア(往診)15人 ※延人数
口腔機能維持管理指導	月1回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による指導
機能訓練	週2回	全利用者	機能訓練計画書による機能訓練 ※短期入所利用者除く
訪問美容	概ね 毎週水曜日	延110 人	4月(4回)、5月(4回) 6月(2回)、7月(2回) 8月(2回)、9月(3回) 10月(2回)、11月(2回) 12月(8回)、1月(3回)

			2月（2回）、3月（2回）実施
--	--	--	-----------------

(6) 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）の他、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（夜間想定）	7 / 1	43人	職員26人、入所者17人
防災訓練（夜間想定）	10 / 28	50人	職員27人、入所者23人

(7) ボランティアの受け入れ

内 容	実施時期等	実施者数	備 考
紙芝居作りを通じたコミュニケーション	不定期 複数回	各回 約5名	青森県立保健大学ソーシャルワーク研究会所属学生
書道指導	5 / 13	2人	青森県立保健大学書道サークル所属学生
オカリナ演奏	5 / 20	2人	運営推進委員前田氏の友人 音楽体操クラブにて披露
創作舞踊	9 / 16	4人	日本舞踊「喜楽会」 敬老会のアトラクションとして
マジック・踊り・歌謡曲を披露	10 / 7	6人	ボランティアサークル「希望の会」 芸能公演会として
童謡や歌謡曲の披露	11 / 11	1人	ソプラノ歌手竹村佳子氏による ソプラノリサイタルとして
ソプラノリサイタルの写真係	11 / 11	1人	青森県立保健大学学生
利用者とのコミュニケーション	12 / 28	1人	青森南高校生徒
掃除や利用者とのコミュニケーション	3 / 2～4	1人	青森明の星暖気大学学生
掃除や利用者とのコミュニケーション	3 / 28	1人	青森南高校生徒